

苅田町下水道事業経営戦略

公共下水道事業

農業集落排水事業

令和6年3月

福岡県

苅田町上下水道課

目 次

目 次

| | |
|------------------------|-------|
| 1. 経営戦略改定の目的 | P. 2 |
| 2. 計画期間 | P. 2 |
| 3. 下水道事業の現状 | P. 3 |
| 4. 経営指標による類似団体との経営比較分析 | P. 9 |
| 5. 経営の基本理念と基本方針 | P. 23 |
| 6. 経営戦略の検証・更新等 | P. 23 |
| 7. 投資・財政計画 | P. 24 |
| (1) 投資試算 | P. 24 |
| (2) 経費及び財源の試算方法 | P. 25 |
| (3) 投資・財政計画 | P. 30 |
| 8. 効率化・経営健全化の取組 | P. 37 |
| 主な用語集 | P. 41 |

1. 経営戦略改定の目的

苅田町下水道事業経営戦略は、令和3年3月（2020年度）に策定され、令和12年度（2030年度）までの10か年にわたる経営計画です。当初の予定では、3～5年のサイクルで計画の達成状況を検証し、必要な見直しを実施することとしていました。

令和2年3月に国土交通省「社会資本整備総合交付金等の交付にあたっての要件等の運用について」の通達においては、「下水道使用料の改定の必要性に関する検証を行うとともに、検証結果を踏まえ、経費回収率の向上に向けたロードマップを経営戦略に記載」と規定されています。

さらに、令和4年1月に総務省「経営戦略の改定推進について」の通達において「策定した経営戦略に沿った取組等の状況を踏まえつつ、PDCAサイクルを通じて質を高めていくため、3年から5年内の見直しを行うことが重要。「新経済・財政再生計画改革工程表2021」（令和3年12月23日経済財政諮問会議決定）においても、経営戦略の見直し率を令和7年度までに100%とすることとされている。」ことから、この通達の趣旨に鑑み、本計画を現時点の経営状況に照らして見直す必要があります。

このたび、令和2年度の策定から3か年経過することから、最新の経営成績に基づいて改めて財政収支計画を見直し、さらなる経営基盤の強化及び財政マネジメントの向上を図ることを目的として、経営戦略を改定するものです。

2. 計画期間

令和2年度策定時の計画期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間でした。今回、投資・財政計画は最新の実績値を反映したもので令和6年度から令和15年度までの10年間の予測を行うものとなります。

計画期間中は、決算に基づく事業の進捗状況の点検・評価を毎年度行い、その結果を踏まえて令和10年度に経営戦略の見直しを行います。

3. 下水道事業の現状

(1) 事業概況

本町は、大正13年に苅田村が苅田町に移行後、昭和30年に苅田町（旧）、小波瀬村、白川村の1町2村が合併し、現在の苅田町となりました。

本町では、1処理区・1処理分区の公共下水道と、2処理区の農業集落排水施設で下水道事業を行っています。

公共下水道は平成14年に供用開始しました。新たな施設整備としては苅田町浄化センターにおいて、水処理施設（1系列）の増設とし尿受入施設の新設、そして計画区域内での管きよの新設を行っており、今後も継続します。

農業集落排水事業は平成18年に片島地区にて、平成28年に白川南部地区にて整備を完了し、供用開始しています。

(2) 下水道事業の施設

① 公共下水道事業

公共下水道事業（以下、「公共」という。）は、国土交通省の所管事業で、下水道法に基づき、主として市街地における下水を排除し、又は処理するために、地方公共団体が管理する下水道です。

現在、1処理区、1処理分区において、単独で汚水を処理しています。

（令和5年3月31日現在）

| 処理区域 | 施設名 | 供用開始年月日 （経過年数） | 区域内人口密度 | 処理能力 | 管きよ延長 |
|-----------|---------------|--------------------|----------|-------------------------|-------|
| 苅田処理区 | 苅田町 浄化センター | 平成14年9月1日 (21年) | 48.5人/ha | 7,200 m ³ /日 | 105km |
| 苅田町空港処理分区 | | | | | |

※出典：令和4年度決算統計

② 集落排水事業

農業集落排水事業（以下、「農集」という。）は、農林水産省の所管事業で、浄化槽法に基づき農漁村における汚水を処理する事業です。

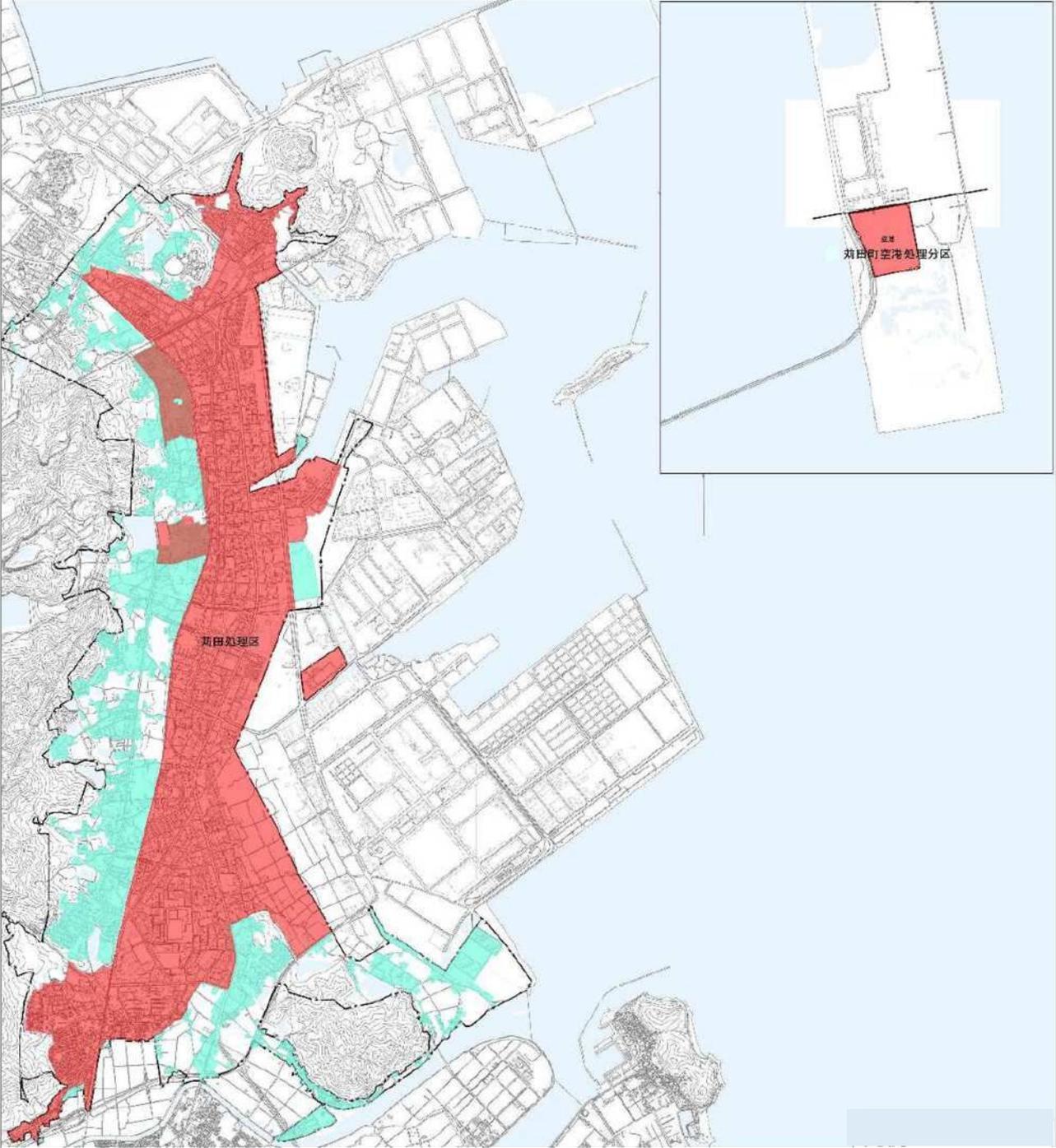
片島地区と白川南部地区の2処理区において、単独で汚水を処理しています。

（令和5年3月31日現在）

| 処理区域 | 施設名 | 供用開始年月日 （経過年数） | 区域内人口密度 | 処理能力 | 管きよ延長 |
|--------|--------------------|---------------------|----------|----------------------|-------|
| 片島地区 | 片島地区農業集落 排水処理施設 | 平成18年10月1日 (16年) | 27人/ha | 413m ³ /日 | 7km |
| 白川南部地区 | | 平成28年10月1日 (6年) | 12.8人/ha | | 11km |

※出典：令和4年度決算統計

荏田町公共下水道处理区域



苅田町農業集落排水処理区域



(3) 処理区域内人口と水洗化人口

① 処理区域内人口の概要

(人)

| 事業名 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|
| 公共下水道 | 19,266 | 19,541 | 19,846 | 20,233 |
| 苅田処理区 | 19,266 | 19,541 | 19,846 | 20,233 |
| 苅田町空港処理分区 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 農業集落排水 | 1,207 | 1,174 | 1,180 | 1,152 |
| 片島地区 | 702 | 678 | 691 | 677 |
| 白川南部地区 | 505 | 496 | 489 | 475 |
| 計 | 20,473 | 20,715 | 21,026 | 21,385 |

※出典：総務省経営分析算出データ、令和4年度決算統計

② 処理区域内人口の将来推計

令和4年度時における実績は、公共については前回経営戦略策定時点（令和2年度）の推計を上回る結果となっています。改定に当たっては、過去5箇年実績の推移を基に推計する方式とします。

(人)

| | 令和4年度 | | 令和10年度 | 令和15年度 |
|-----|--------|--------|--------|--------|
| | 推計※ | 実績 | 推計 | 推計 |
| 公共計 | 19,299 | 20,233 | 22,829 | 25,246 |
| 農集計 | 1,301 | 1,152 | 1,024 | 928 |
| 総計 | 20,600 | 21,385 | 23,853 | 26,174 |

※苅田町下水道事業経営戦略（令和3年3月）より抜粋

③ 水洗化人口と水洗化率（人口接続率）

（単位 人口：人、 率：％ 小数点以下四捨五入）

| 事業名 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|
| 水洗化人口（人） | 15,066 | 15,524 | 16,440 | 16,978 |
| 公共下水道 | 14,398 | 14,870 | 15,778 | 16,295 |
| 苅田処理区 | 14,398 | 14,870 | 15,778 | 16,295 |
| 苅田町空港処理分区 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 農業集落排水 | 668 | 654 | 662 | 683 |
| 片島地区 | 544 | 533 | 531 | 554 |
| 白川南部地区 | 124 | 121 | 131 | 129 |
| 水洗化率（％） | 73.6 | 74.9 | 78.2 | 79.4 |
| 公共下水道 | 74.7 | 76.1 | 79.5 | 80.5 |
| 苅田処理区 | 74.7 | 76.1 | 79.5 | 80.5 |
| 苅田町空港処理分区 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 農業集落排水 | 55.3 | 55.7 | 56.1 | 59.3 |
| 片島地区 | 77.5 | 78.6 | 76.8 | 81.8 |
| 白川南部地区 | 24.6 | 24.4 | 26.8 | 27.2 |

※水洗化率＝水洗化人口÷処理区域内人口

※苅田町空港処理分区は北九州空港関連施設が所在し、施設は水洗化されていますが住民登録はされていません。

※出典：総務省経営分析算出データ、令和4年度決算統計

（４）会計処理方式

本町では、公共下水道事業は平成18年度（2006年度）、農業集落排水事業は平成21年度（2009年度）に、地方公営企業法の財務・会計に関する規定を適用し、会計処理を行っています。

（５）使用料

本町の公共下水道事業及び農業集落排水事業の下水道使用料は、毎月の検針により排出量を認定し、使用料を算出しています。使用料体系は、基本使用料（基本水量有）と累進型従量使用料の二部使用料制を採用しています。

① 月20m³あたりの使用料の推移（消費税込）（単位：円）

| | 平成12年度 | 平成26年度 （税改正8％） | 令和元年度 （税改正10％） |
|---------------------------|--------|-------------------|-------------------|
| 月20m ³ あたりの使用料 | 3,360 | 3,460 | 3,520 |

※出典：苅田町公共下水道例規

② 月20m³あたりの実質的な使用料（消費税込）（単位：円）の変遷
（公共下水道）

（円、消費税込）

| | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 実質的な使用料 | 3,880 | 3,840 | 3,860 | 3,890 |
| 類似団体平均 | 3,130 | 3,150 | 3,170 | — |
| 福岡県内平均 | 3,520 | 3,490 | 3,570 | — |
| 類似団体区分 | Cc 2 | Cc 2 | Cc 2 | |

※実質的な使用料＝使用料収入÷有収水量×20m³

※「類似団体」とは、総務省経営比較分析Cc2（供用開始後15年以上30年未満に該当）に区分される市町村とします。

※「福岡県内」とは、上記類似団体の内、福岡県内に位置している市町村とします。

※出典：総務省経営分析算出データ、令和4年度決算統計

（農業集落排水事業）

（円、消費税込）

| | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 実質的な使用料 | 3,530 | 3,540 | 3,500 | 3,520 |
| 類似団体平均 | 2,800 | 2,760 | 3,290 | — |
| 福岡県内平均 | 3,850 | 3,830 | 3,610 | — |
| 類似団体区分 | F 3 | F 3 | F 2 | — |

※実質的な使用料＝使用料収入÷有収水量×20m³

※「類似団体」とは、令和元年と令和2年度は総務省経営比較分析のF3（供用開始15年未満に該当）、令和3年度はF2（供用開始15年以上30年未満に該当）に区分される市町村とします。

※「福岡県内」とは、上記類似団体の内、福岡県内に位置している市町村とします。

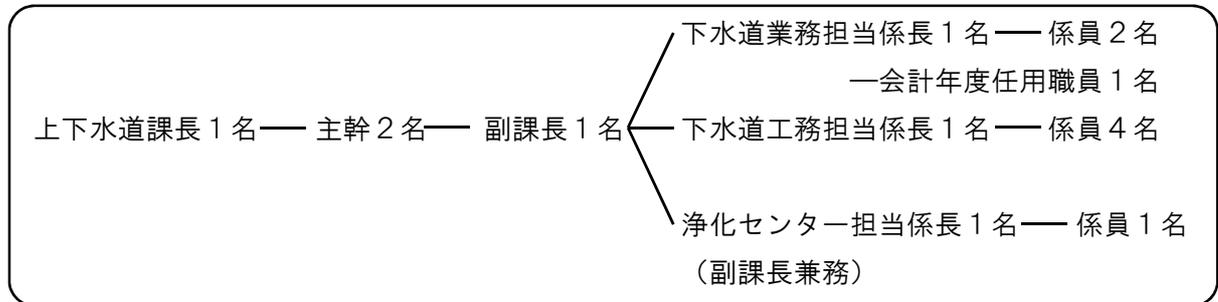
※出典：総務省経営分析算出データ、令和4年度決算統計

(6) 事業組織

本町の下水道事業は現在14名が従事しています。

組織図

上下水道課



4. 経営指標による類似団体との経営比較分析

経営指標及び経営比較分析は、公営企業の経営数値を経年比較や他の公営企業との比較、複数の指標を組み合わせた分析を行うことで、経営の現状及び課題を的確かつ簡明に把握することを目的として国（総務省）が共通様式で定めています。なお、有収率は国（総務省）様式には記載の無い指標ですが、事業の効率性を分析するため、独自に追加しています。

本経営戦略においては、以下に経営比較分析の結果を示し、本町下水道事業の課題を抽出します。なお、本町は、「供用開始15年以上30年未満」の類型区分Cc2（公共）、F3（農集）に属します。公共は別紙1（P11～P16）、農集は別紙2（P17～P22）のとおりです。

(1) 各指標から読み取れる本町の特徴

平成30年度から令和4年度までの本町の各指標値及び類似団体の各平均値を比較し、収益性、効率性、健全性、施設の老朽化状況の4つの観点から分析を行いました。

① 収益性

公共は経常収支比率が100%を超えている一方で、農集は90%前後で推移しています。経費回収率についても公共が100%であるのに対して、農集は20%台と低い水準となっています。

公共は健全な状態と言えますが、農集では、本来使用者が負担すべき汚水処理にかかる営業費用を使用料収入で賄っておらず、その不足分を一般会計からの繰入金に依存している状況がうかがえます。

汚水処理原価（令和4年度：公共194.57円、農集704.50円）については、公共は平均よりも低く抑えられています。農集においては平均を上回る状態が続いています。

一方、使用料収入の基礎となる水洗化率（令和4年度：公共80.54%、農集58.42%）は、公共が類似団体平均値と同程度の水準であり、農集は平均値を大きく下回っていることから、今後も接続促進の取り組みを継続する必要があります。

② 効率性

本町の有収率は、公共、農集ともに98%を超え、類似団体を上回っています。

要因として、耐用年数を迎えた管きよが無いことから污水管に流れ込む不明水が少ないことが挙げられます。処理水量のうち使用料を回収できないという機会損失の発生が抑えられていることを意味します。即ち、水洗化率を向上させる施策の効果が高いということになります。

③ 健全性

本町の流動比率は公共、農集ともに100%を大きく下回っています。

要因の一つとして、当年度に生み出されたキャッシュフローが蓄積されずに企業債償還に充当されて外部流出していることが挙げられます。平常時において企業債の償還に係る資金繰りが一般会計の負担となっているだけでなく、予見できない事故や災害の発生に対して対応余力が乏しいため、業務上のキャッシュフローを改善する努力を今後も継続する必要があります。

④ 施設の老朽化状況

本町は、最も古い処理区においても平成14年度に供用を開始しており、法定耐用年数である50年を超過した管路施設及び躯体施設はありません。

経営の健全性・効率性

| 経営指標 | | ① 経常収支比率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--------|--|--------|--------|--------|--|--|-----|----|----|----|----|-----|--------|--------|--------|--------|--------|-----|--------|--------|--------|--------|---|
| ① 経常収支比率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価基準 | | 100%を超えるほうが良い | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計算式 | | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苅田町</td> <td>111.72</td> <td>113.89</td> <td>114.82</td> <td>117.00</td> <td>129.78</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>104.14</td> <td>106.57</td> <td>107.21</td> <td>107.08</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | 苅田町 | 111.72 | 113.89 | 114.82 | 117.00 | 129.78 | 平均値 | 104.14 | 106.57 | 107.21 | 107.08 | — |
| | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 苅田町 | 111.72 | 113.89 | 114.82 | 117.00 | 129.78 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平均値 | 104.14 | 106.57 | 107.21 | 107.08 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 説明 | | 評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>使用料収入や一般会計からの繰入金等の総収益で維持管理費や支払利息等の総費用をどの程度賄えているかを示す指標です。100%を超えているときは、単年度の収支が黒字であることを意味します。</p> | | <p>経常費用を経常収益で賄うことができています。他会計負担金による影響がありますが、健全な状態といえます。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

経営の健全性・効率性

| 経営指標 | | ② 累積欠損金比率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|--|-------|-------|------|--|--|-----|----|----|----|----|-----|------|------|------|------|------|-----|-------|-------|-------|-------|---|
| ② 累積欠損金比率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価基準 | | 0%となるほうが良い | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計算式 | | $\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益—受託工事収益}} \times 100$ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苅田町</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>73.18</td> <td>53.44</td> <td>43.71</td> <td>45.94</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | 苅田町 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 平均値 | 73.18 | 53.44 | 43.71 | 45.94 | — |
| | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 苅田町 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平均値 | 73.18 | 53.44 | 43.71 | 45.94 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 説明 | | 評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>営業収益に対する累積欠損金（営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した欠損金のこと）の状況を表す指標です。</p> | | <p>累積欠損金は発生しておらず、健全な財務状況といえます。引き続き、健全な財務状況を維持することとします。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

経営の健全性・効率性

| | | | | | |
|--|------------------|--|--|--|--|
| 経営指標 | ③流動比率 (%) | | | | |
| ③流動比率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | | | | | |
| 高い方が良い | | | | | |
| 計算式 | | | | | |
| $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | | | | | |
| 説明 | | | | | 評価 |
| 1年以内に支払うべき債務に対して、支払い可能な現金等をどの程度有しているかを示す指標で、短期の支払い能力を表しています。 | | | | | 流動比率が100%を超えていないため、支払い能力は十分とはいえませんが、類似団体平均値を超えている状況です。今後は、この水準を改善できるように努めます。 |

経営の健全性・効率性

| | | | | | |
|--|--------------------------|--|--|--|---|
| 経営指標 | ④企業債残高対事業規模比率 (%) | | | | |
| ④企業債残高対事業規模比率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | | | | | |
| 低い方が良い | | | | | |
| 計算式 | | | | | |
| $\frac{\text{企業債現在高合計} - \text{一般会計負担額}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益} - \text{雨水処理負担金}} \times 100$ | | | | | |
| 説明 | | | | | 評価 |
| 企業債の残高と使用料収入等の収益との比率を示す指標です。比率は低い方が良いとされています。 | | | | | 類似団体平均値を上回っており、起債残高が多く残っています。今後も施設の整備が続きますので、計画的な投資を通じて企業債残高の上昇抑制に努めます。 |

経営の健全性・効率性

| 経営指標 | ⑤経費回収率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--------|--------|--------|--------|--|-----|----|----|----|----|------------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|-------|-------|-------|-------|---|
| ⑤経費回収率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 100%を超えるほうが良い | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計算式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| $\frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費}} \times 100$ (公費負担分を除く) | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">荻田町</td> <td style="text-align: center;">100.00</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">平均値</td> <td style="text-align: center;">82.88</td> <td style="text-align: center;">81.88</td> <td style="text-align: center;">82.65</td> <td style="text-align: center;">82.55</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | 荻田町 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 平均値 | 82.88 | 81.88 | 82.65 | 82.55 | — |
| | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 荻田町 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平均値 | 82.88 | 81.88 | 82.65 | 82.55 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 汚水処理に要した経費を、使用料収入でどの程度賄えているかを示した指標です。使用料水準等を評価することが可能で、すべて使用料収入で賄えている場合は100%以上となり、適正な使用料が確保されていることとなります。 | 経費回収率が100%であるため、適正な使用料が確保されています。引き続き、この状況を維持できるよう努めます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

経営の健全性・効率性

| 経営指標 | ⑥汚水処理原価 (円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--------|--------|--------|--------|--|-----|----|----|----|----|------------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|--------|--------|--------|--------|---|
| ⑥汚水処理原価 (円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 低い方が良い | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計算式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| $\frac{\text{汚水処理費}}{\text{年間有収水量}}$ (公費負担分を除く) | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">荻田町</td> <td style="text-align: center;">193.58</td> <td style="text-align: center;">193.95</td> <td style="text-align: center;">191.96</td> <td style="text-align: center;">193.13</td> <td style="text-align: center;">194.57</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">平均値</td> <td style="text-align: center;">190.99</td> <td style="text-align: center;">187.55</td> <td style="text-align: center;">186.30</td> <td style="text-align: center;">188.38</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | 荻田町 | 193.58 | 193.95 | 191.96 | 193.13 | 194.57 | 平均値 | 190.99 | 187.55 | 186.30 | 188.38 | — |
| | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 荻田町 | 193.58 | 193.95 | 191.96 | 193.13 | 194.57 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平均値 | 190.99 | 187.55 | 186.30 | 188.38 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 下水道使用料の対象となった水量1㎡あたりの汚水処理に要した費用を示す指標です。一般的には低額の方が良いとされていますが、明確な数値基準がないため、経年比較や類似団体との比較等により現状分析を行います。 | 類似団体平均値をやや上回る水準で推移しています。引き続き汚水処理原価上昇の抑制に努めます。適正な使用料のあり方についても、今後必要に応じて検討していくこととします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

経営の健全性・効率性

| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| 経営指標 | ⑦施設利用率 (%) | | | | |
| ⑦施設利用率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | | | | | |
| 高い方が良い | | | | | |
| 計算式 | | | | | |
| $\frac{\text{晴天時一日平均処理水量}}{\text{晴天時現在処理能力}} \times 100$ | | | | | |
| 晴天時一日平均処理水量 | | | | | |
| 晴天時現在処理能力 | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | |
| 施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する、一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標です。 | 類似団体平均値を上回っているため、効率良く施設を使用できています。引き続き、効率性を重視した施設利用に努めます。 | | | | |

経営の健全性・効率性

| | | | | | |
|---|---|--|--|--|--|
| 経営指標 | ⑧水洗化率 (%) | | | | |
| ⑧水洗化率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | | | | | |
| 高い方が良い | | | | | |
| 計算式 | | | | | |
| $\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}} \times 100$ | | | | | |
| 現在水洗便所設置済人口 | | | | | |
| 現在処理区域内人口 | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | |
| 処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理をしている人口の割合を示す指標で、100%となることが理想です。 | 水洗化率は年々向上しており、類似団体平均値と同水準となっています。引き続き、普及促進活動を行い、水洗化率の向上に努めます。 | | | | |

経営の健全性・効率性

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|
| 経営指標 | ⑨有収率 (%) | | | | |
| ⑨有収率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | | | | | |
| 高い方が良い | | | | | |
| 計算式 | | | | | |
| $\frac{\text{年間有収水量}}{\text{年間処理水量}} \times 100$ | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | |
| 各家庭・事業所等から排出された汚水量のうち、実際に下水道使用料の対象となった水量の割合を示す指標で、100%に近いほど良いとされています。 | 類似団体平均値と比較して高い水準で推移しています。引き続き管きよの定期点検、長寿命化により、有収率を下げないように努めます。 | | | | |

老朽化の状況

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|
| 経営指標 | ①有形固定資産減価償却率 (%) | | | | |
| ①有形固定資産減価償却率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | | | | | |
| 低い方が良い | | | | | |
| 計算式 | | | | | |
| $\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$ | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | |
| 有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標で、資産の老朽化度合いを表しています。この比率が高いほど減価償却が進んでおり、施設の老朽化が進んでいることを示しています。 | 類似団体平均値を超えており、施設の老朽化が類似団体よりも進んでいます。引き続き、老朽化資産の更新事業について、ストックマネジメント計画に従い、効率よく実施していきます。 | | | | |

老朽化の状況

| 経営指標 | ②管きょ老朽化率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|------|------|------|------|----|----|----|-----|------|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|---|
| ②管きょ老朽化率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価基準 | 低い方が良い | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計算式 | $\frac{\text{法定耐用年数を経過した管きょ延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苅田町</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.10</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> | | | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | 苅田町 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 平均値 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.10 | — |
| | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 苅田町 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平均値 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.10 | — | | | | | | | | | | | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 法定耐用年数を超えた管きょ延長の割合を示す指標で、管きょの老朽化度合いを表しています。 | 本町の公共下水道事業は最も古い処理区でも平成14年度供用開始となっており、耐用年数を超える管路施設はありません。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

老朽化の状況

| 経営指標 | ③管きょ改善率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|----|----|----|-----|------|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|---|
| ③管きょ改善率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価基準 | 高い方が良い | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計算式 | $\frac{\text{改善（更新・改良・修繕）管きょ延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苅田町</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>0.13</td> <td>0.15</td> <td>1.65</td> <td>0.14</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> | | | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | 苅田町 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 平均値 | 0.13 | 0.15 | 1.65 | 0.14 | — |
| | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 苅田町 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平均値 | 0.13 | 0.15 | 1.65 | 0.14 | — | | | | | | | | | | | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その年度に更新・改良・修繕した管きょ延長の割合を示した指標で、改善の取組状況を表しています。 | 本町の公共下水道事業は最も古い処理区でも平成14年度供用開始となっており、耐用年数を超える管路施設はありません。今後は必要に応じ更新・改良・修繕を行っていきます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

経営の健全性・効率性

| | | | | | |
|-------------|---|--|--|--|--|
| 経営指標 | ①経常収支比率 (%) | | | | |
| ①経常収支比率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | 100%を超えるほうが良い | | | | |
| 計算式 | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ | | | | |
| 説明 | 使用料収入や一般会計からの繰入金等の総収益で維持管理費や支払利息等の総費用をどの程度賄えているかを示す指標です。100%を超えているときは、単年度の収支が黒字であることを意味します。 | | | | |
| 評価 | 経常費用を経常収益で賄うことができていない状況にあります。このため、経営改善策を講じる必要がある状態といえます。 | | | | |

経営の健全性・効率性

| | | | | | |
|--------------|--|--|--|--|--|
| 経営指標 | ②累積欠損金比率 (%) | | | | |
| ②累積欠損金比率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | 0%となるほうが良い | | | | |
| 計算式 | $\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益—受託工事収益}} \times 100$ | | | | |
| 説明 | 営業収益に対する累積欠損金（営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した欠損金のこと）の状況を表す指標です。 | | | | |
| 評価 | 累積欠損金が発生しており、経営状況の改善が必要な状況にあります。 | | | | |

経営の健全性・効率性

| 経営指標 | ③流動比率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--------|--------|-------|-------|----|----|----|-----|--------|--------|--------|-------|-------|-----|--------|--------|--------|-------|---|
| ③流動比率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価基準 | 高い方が良い | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計算式 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苅田町</td> <td>246.56</td> <td>221.46</td> <td>150.38</td> <td>74.74</td> <td>27.72</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>181.16</td> <td>103.43</td> <td>103.70</td> <td>35.69</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> | | | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | 苅田町 | 246.56 | 221.46 | 150.38 | 74.74 | 27.72 | 平均値 | 181.16 | 103.43 | 103.70 | 35.69 | — |
| | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 苅田町 | 246.56 | 221.46 | 150.38 | 74.74 | 27.72 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平均値 | 181.16 | 103.43 | 103.70 | 35.69 | — | | | | | | | | | | | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1年以内に支払うべき債務に対して、支払い可能な現金等をどの程度有しているかを示す指標で、短期の支払い能力を表しています。 | 数値が年々低下しているため、支払い能力が低下している状況にあります。この状態が続くと資金繰りに影響が出る可能性があります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

経営の健全性・効率性

| 経営指標 | ④企業債残高対事業規模比率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---------|---------|---------|---------|----|----|----|-----|---------|---------|---------|---------|---------|-----|--------|--------|--------|--------|---|
| ④企業債残高対事業規模比率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価基準 | 低い方が良い | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計算式 | $\frac{\text{企業債現在高合計} - \text{一般会計負担額}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益} - \text{雨水処理負担金}} \times 100$ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苅田町</td> <td>6583.23</td> <td>5732.57</td> <td>5455.57</td> <td>5312.53</td> <td>5049.87</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>650.64</td> <td>673.08</td> <td>746.98</td> <td>791.76</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> | | | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | 苅田町 | 6583.23 | 5732.57 | 5455.57 | 5312.53 | 5049.87 | 平均値 | 650.64 | 673.08 | 746.98 | 791.76 | — |
| | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 苅田町 | 6583.23 | 5732.57 | 5455.57 | 5312.53 | 5049.87 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平均値 | 650.64 | 673.08 | 746.98 | 791.76 | — | | | | | | | | | | | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 企業債の残高と使用料収入等の収益との比率を示す指標です。比率は低い方が良いとされています。 | 類似団体平均値を上回っており、起債残高が多く残っているものの、整備が概成し、起債償還の局面にあることから、数値は改善傾向にあります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

経営の健全性・効率性

| 経営指標 | ⑤経費回収率 (%) | | | | |
|------------|--|--|--|--|--|
| ⑤経費回収率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | 100%を超えるほうが良い | | | | |
| 計算式 | $\frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費}} \times 100$ (公費負担分を除く) | | | | |
| 説明 | 汚水処理に要した経費を、使用料収入でどの程度賄えているかを示した指標です。使用料水準等を評価することが可能で、すべて使用料収入で賄えている場合は100%以上となり、適正な使用料が確保されていることとなります。 | | | | |
| 評価 | 100%に達していない状況です。引き続き適正な使用料収入の確保や汚水処理費の削減に努めます。 | | | | |

経営の健全性・効率性

| 経営指標 | ⑥汚水処理原価 (円) | | | | |
|-------------|--|--|--|--|--|
| ⑥汚水処理原価 (円) | | | | | |
| 評価基準 | 低い方が良い | | | | |
| 計算式 | $\frac{\text{汚水処理費}}{\text{年間有収水量}}$ (公費負担分を除く) | | | | |
| 説明 | 下水道使用料の対象となった水量 1 m ³ あたりの汚水処理に要した費用を示す指標です。一般的には低額の方が良いとされていますが、明確な数値基準がないため、経年比較や類似団体との比較等により現状分析を行います。 | | | | |
| 評価 | 類似団体平均値を大きく上回っています。処理の一層の効率化を行い、汚水処理原価の抑制に努めます。 | | | | |

経営の健全性・効率性

| | | | | | |
|--|---|--|--|--|--|
| 経営指標 | ⑦施設利用率 (%) | | | | |
| ⑦施設利用率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | | | | | |
| 高い方が良い | | | | | |
| 計算式 | | | | | |
| $\frac{\text{晴天時一日平均処理水量}}{\text{晴天時現在処理能力}} \times 100$ | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | |
| 施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する、一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標です。 | 類似団体平均値を下回っています。引き続き、効率性を重視した施設利用に努めます。 | | | | |

経営の健全性・効率性

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|
| 経営指標 | ⑧水洗化率 (%) | | | | |
| ⑧水洗化率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | | | | | |
| 高い方が良い | | | | | |
| 計算式 | | | | | |
| $\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}} \times 100$ | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | |
| 処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理をしている人口の割合を示す指標で、100%となることが理想です。 | 類似団体平均値を下回っていますが、数値は年々改善傾向にあります。引き続き、普及促進活動を行い、水洗化率の向上に努めます。 | | | | |

経営の健全性・効率性

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|
| 経営指標 | ⑨有収率 (%) | | | | |
| ⑨有収率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | | | | | |
| 高い方が良い | | | | | |
| 計算式 | | | | | |
| $\frac{\text{年間有収水量}}{\text{年間処理水量}} \times 100$ | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | |
| 各家庭・事業所等から排出された汚水量のうち、実際に下水道使用料の対象となった水量の割合を示す指標で、100%に近いほど良いとされています。 | 類似団体平均値と比較して高い水準で推移しています。引き続き管きよの定期点検、長寿命化により、有収率を下げないように努めます。 | | | | |

老朽化の状況

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|
| 経営指標 | ①有形固定資産減価償却率 (%) | | | | |
| ①有形固定資産減価償却率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | | | | | |
| 低い方が良い | | | | | |
| 計算式 | | | | | |
| $\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$ | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | |
| 有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標で、資産の老朽化度合いを表しています。この比率が高いほど減価償却が進んでおり、施設の老朽化が進んでいることを示しています。 | 類似団体平均値を超えており、施設の老朽化が類似団体よりも進んでいます。引き続き、老朽化資産の更新事業について、ストックマネジメント計画に従い、効率よく実施していきます。 | | | | |

老朽化の状況

| 経営指標 | ②管きょ老朽化率 (%) | | | | |
|---|---|--|--|--|--|
| ②管きょ老朽化率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | | | | | |
| 低い方が良い | | | | | |
| 計算式 | | | | | |
| $\frac{\text{法定耐用年数を経過した管きょ延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$ | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | |
| 法定耐用年数を超えた管きょ延長の割合を示す指標で、管きょの老朽化度合いを表しています。 | 本町の農業集落排水事業は最も古い処理区でも平成18年度供用開始となっており、耐用年数を超える管路施設はありません。 | | | | |

老朽化の状況

| 経営指標 | ③管きょ改善率 (%) | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| ③管きょ改善率 (%) | | | | | |
| 評価基準 | | | | | |
| 高い方が良い | | | | | |
| 計算式 | | | | | |
| $\frac{\text{改善（更新・改良・修繕）管きょ延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$ | | | | | |
| 説明 | 評価 | | | | |
| その年度に更新・改良・修繕した管きょ延長の割合を示した指標で、改善の取組状況を表しています。 | 本町の農業集落排水事業は最も古い処理区でも平成18年度供用開始となっており、耐用年数を超える管路施設はありません。今後は必要に応じ更新・改良・修繕を行っていきます。 | | | | |

5. 経営の基本理念と基本方針

公共用水域の水質保全や生活環境の改善に寄与し、安全で快適な下水道サービスを持続的・安定的に提供することを理念とし、次の3点を基本方針として取り組みます。

① 快適な生活環境の保全

町民の生活環境改善や利便性向上のため、未整備区域の整備と浄化センターにおける処理能力の強化を促進します。人口減少や少子高齢化といった社会情勢の変化を踏まえ、本町における排水需要に即した整備を進め、下水道普及率の向上に努めます。

② 適正な施設更新と危機管理の強化

ストックマネジメント計画に沿って計画的な更新を進めます。

施設の適正な保守点検を行い、地震や風水害等の大規模災害時に下水道が果たすべき機能を維持・回復できるように努めます。

③ サービスの向上と安定した経営の実現

本経営戦略に基づき安定した経営基盤の確立に努めます。

人口減少による施設処理能力の余剰分の検討等を行い、最適化を図り、経費節減に努めます。

供用開始区域内における未接続世帯に対して、戸別訪問や水洗化工事に対する融資あっせん制度、補助金制度等の周知を一層強化し、水洗化率の向上を図ります。

また、「社会資本整備総合交付金等の交付にあたっての要件等の運用について」（国水下事第56号、令和2年3月31日 国土交通省下水道部下水道事業課長通知）により、経費回収率の向上に向けたロードマップの経営戦略への記載等を社会資本整備総合交付金の交付要件としているため、以下のとおり目標を設定します。

経営安定化に関する目標設定

| 項目 | 令和4年度（実績値） | 令和15年度（目標値） | 概要 |
|-----------|------------|-------------|-----------|
| 水洗化率（公共） | 80.5% | 90% | |
| 水洗化率（農集） | 58.4% | 60% | |
| 経費回収率（公共） | 100% | 100% | 100%以上を維持 |

6. 経営戦略の検証・更新等

毎年度進捗管理（モニタリング）を行うとともに、5年に一度を目安に見直し（ローリング）を行うことによりPDCAサイクルを効果的に回して、本経営戦略の事後検証、更新を行うこととします。

7. 投資・財政計画

(1) 投資試算

公共では、苅田町浄化センターにおいて、水処理施設（1系列）の増設とし尿受入施設の新設、そして計画区域内での管きよの新設を継続しています。また農集では施設の整備は完了しています。本経営戦略においては、向こう30年間における投資額の試算を行います。

公共の試算にあたっては、既存の計画等（全体計画、事業計画、ストックマネジメント計画、工事スケジュール）を踏まえて予定額を取りまとめました。

農集に関しては、過年度の実績や最新の予算を踏まえて、毎年度一定額（10,000千円）の支出を見込んでいます。片島地区農業集落排水施設の改築更新費用については、公共下水道との接続など抜本的取り組みが必要なことから、今回の試算では考慮しておりません。

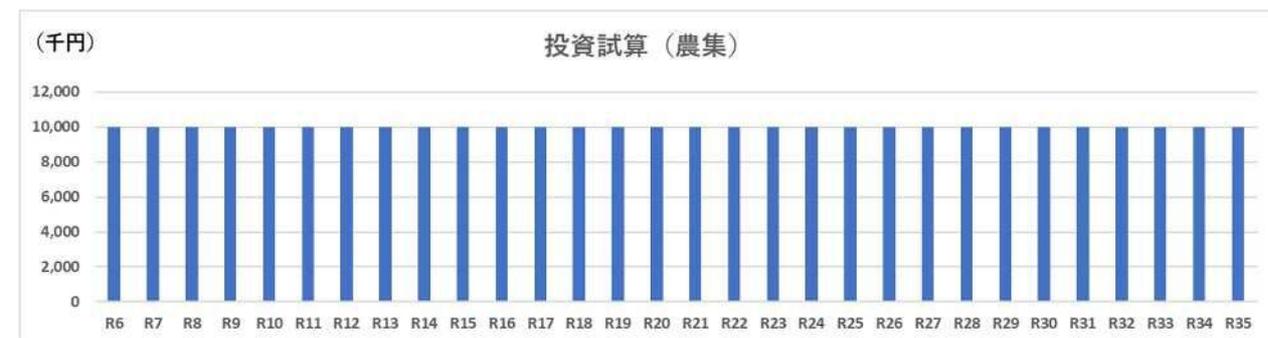
○公共（単位：千円）

| 期間 | 管きよ | 処理場・ポンプ場 | 小計 |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| R 6～R15年度 | 3,417,600 | 3,386,500 | 6,804,100 |
| R16～R35年度 | 1,413,000 | 4,060,000 | 5,473,000 |
| 合計 | 4,830,600 | 7,446,500 | 12,277,100 |



○農集（単位：千円）

| 期間 | 管きよ |
|-----------|---------|
| R 6～R15年度 | 100,000 |
| R16～R35年度 | 200,000 |
| 合計 | 300,000 |



(2) 経費及び財源の試算方法

投資・財政計画策定に当たっての、経費及び財源の試算方法を下表にまとめます。

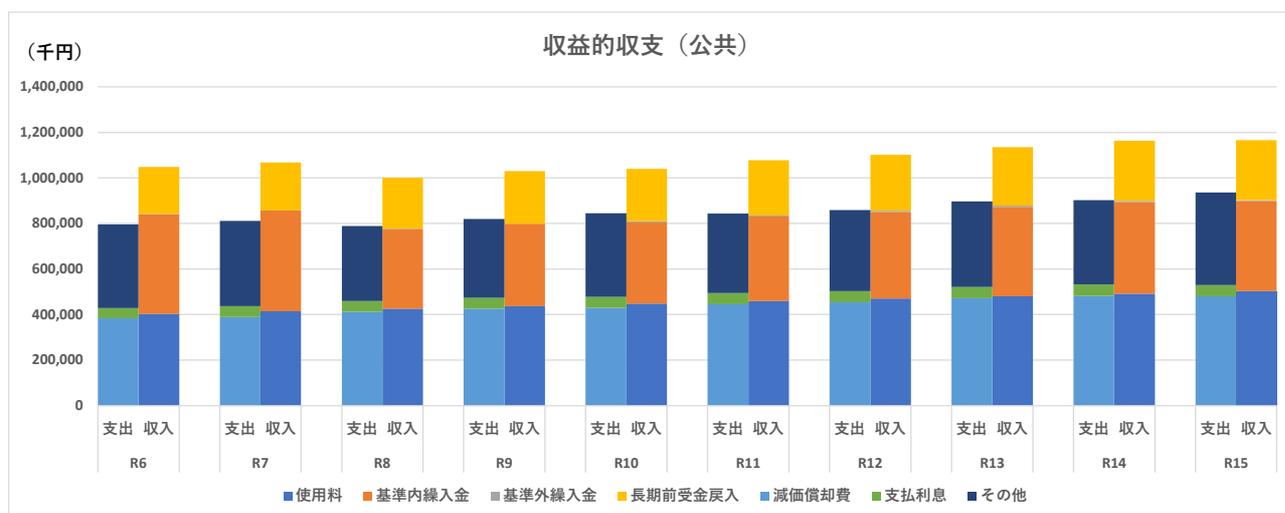
| 社会経済要件 | |
|-------------|--|
| 水洗化人口 | <p>公共下水道の水洗化人口は、面整備を実施中であることを踏まえて、令和4年度の水洗化率80.5%から、令和15年度に90%に上昇するものとして推計する。</p> <p>農業集落排水は整備が完了しているため、令和4年度の58.4%から令和15年度までに60%に上昇するものとして推計する。</p> <p>(公共) 令和6年度：17,463 人、令和15年度：22,721 人</p> <p>(農集) 令和6年度：652 人、令和15年度：557 人</p> |
| 有収水量 | <p>苅田町における過去5年間の実績値から予測する。過去5年間における水洗化人口1人当りの年間有収水量の平均を、計画期間内各年度の予想水洗化人口に乗じて算出した値を予想有収水量とする。</p> <p>(公共) 令和6年度：1,683,392 m³/年、令和15年度：2,190,225 m³/年</p> <p>(農集) 令和6年度：54,746 m³/年、令和15年度：46,752 m³/年</p> |
| 一人あたり年間有収水量 | <p>苅田町の過去5年間の実績値における水洗化人口1人当りの年間有収水量の平均値を採用する。</p> <p>(公共) 96.4m³/年</p> <p>(農集) 84.0m³/年</p> |
| 区域内人口 | <p>苅田町における過去5年間の実績値から予測する。過去5年間の区域内人口増減率の平均を算出し、前年度の区域内人口に乗じて出た値を予想区域内人口とする。</p> <p>(公共) 過去5年間伸び率：108.4% 令和6年度：21,064 人、令和15年度：25,246 人</p> <p>(農集) 過去5年間伸び率：92.4% 令和6年度：1,108 人、令和15年度：928 人</p> |
| 平均使用料単価 | <p>苅田町公共下水道事業決算における平成30年度から令和4年度までの実績データの平均値を計画期間内の使用料単価とする。</p> <p>公共：193.4円/m³</p> <p>農集：176.1円/m³</p> |
| 有収率 | <p>苅田町の過去5年間の実績値から予測する。過去5年間の有収率（年間有収水量÷年間総処理水量）の実績値の平均を、計画期間内各年度の予想有収率とする。</p> |

| 支出の部 | | |
|-----------|--|--|
| 収益的 支出 | 職員給与費 | 平成25年度から令和5年度までの11年間の人事院勧告の動向を基に、毎年度0.53%の上昇を想定する。 |
| | 動力費 | 平成29年度から令和4年度までの過去6年間の電気代の伸び率に基づき、毎年度4.4%の上昇を想定する。 |
| | 光熱水費 | 日本銀行が平成24年度に定めた「物価安定の目標」に基づき、毎年度2%の上昇を想定する。 |
| | 通信運搬費 | 日本銀行が平成24年度に定めた「物価安定の目標」に基づき、毎年度2%の上昇を想定する。 |
| | 修繕費 | 日本銀行が平成24年度に定めた「物価安定の目標」に基づき、毎年度2%の上昇を想定する。 |
| | 材料費 | 日本銀行が平成24年度に定めた「物価安定の目標」に基づき、毎年度2%の上昇を想定する。 |
| | 薬品費 | 日本銀行が平成24年度に定めた「物価安定の目標」に基づき、毎年度2%の上昇を想定する。 |
| | 委託料 | 平成29年度から令和5年度までの過去7年間の労務単価の伸び率を基に、毎年度伸び率2.3%の上昇を想定する。 |
| | 減価償却費 | 現有資産の減価償却費予定額と新規取得分に係る見込み額を合算する。新規取得分については建設改良費において計上している額を取得原価とし、償却期間を土木建築50年、機械電気15年として計算する。 |
| | その他費用 | 日本銀行が平成24年度に定めた「物価安定の目標」に基づき、毎年度2%の上昇を想定する。 |
| 支払利息 | 令和4年度までに借り入れた企業債に関する利息の支払い予定額に、令和5年度以降の借入分に対する支払見込み額を合算する。 | |
| 資本的 支出 | 建設改良費 | 投資については管きよの新設、処理場施設の増設、ストックマネジメント計画に基づく改築更新を、計画的かつ効率的に実施する。 将来推計としては、全体計画、事業計画、ストックマネジメント計画、工事スケジュール（令和4年度～令和7年度）の内容を基に、各年度の見込みを計上する。 |
| | 企業債元金 償還金 | 令和4年度までに借り入れた企業債の元金償還予定額に、令和5年度以降の借入分に対する償還見込みを合算する。 なお、新たに借り入れる企業債分については、借り入れた翌年度から、据置期間を5年とし、30年間均等に償還するものとして試算する。 |

| 収入の部 | | |
|-------|--------|--|
| 収益的収入 | 料金収入 | 現行料金水準に基づき、人口動態等を加味して算出した使用料収入に、し尿・浄化槽汚泥の受入に対する収入見込み額を加算する。 |
| | 他会計補助金 | ・総務省の示す算定基準に基づき、基準内繰入額を推計する。 ・し尿の受入に要する経費は、経営に伴う収入で賄いきれない費用ではないが、基準外繰入金として計上する。 |
| | その他収益 | 令和5年度予算を基に個別に推計する。 |
| 資本的収入 | 他会計補助金 | 総務省の示す算定基準に基づき、基準内繰入額を推計する。資本費のうち、経営に伴う収入で賄いきれない費用について基準外繰入金を算定する。 |
| | 国庫補助金 | 建設改良費に係る国庫補助拠出基準に基づき推計する。 |
| | 企業債 | 建設改良費に係る地方負担分を推計する。 |

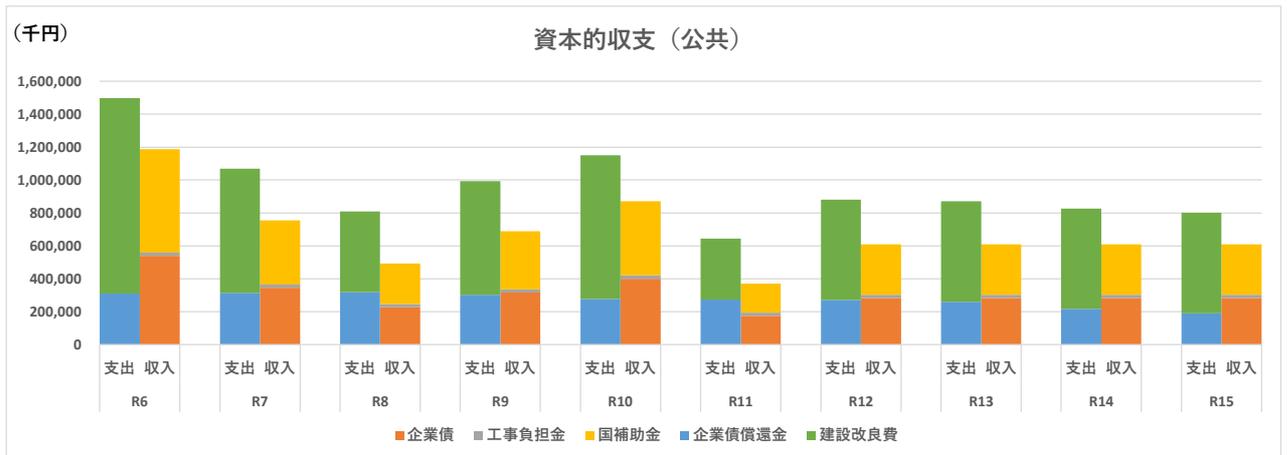
前述の算定条件を基に試算した、計画期間内の収支見込みについては以下のとおりとなります。

収益的収支（公共）

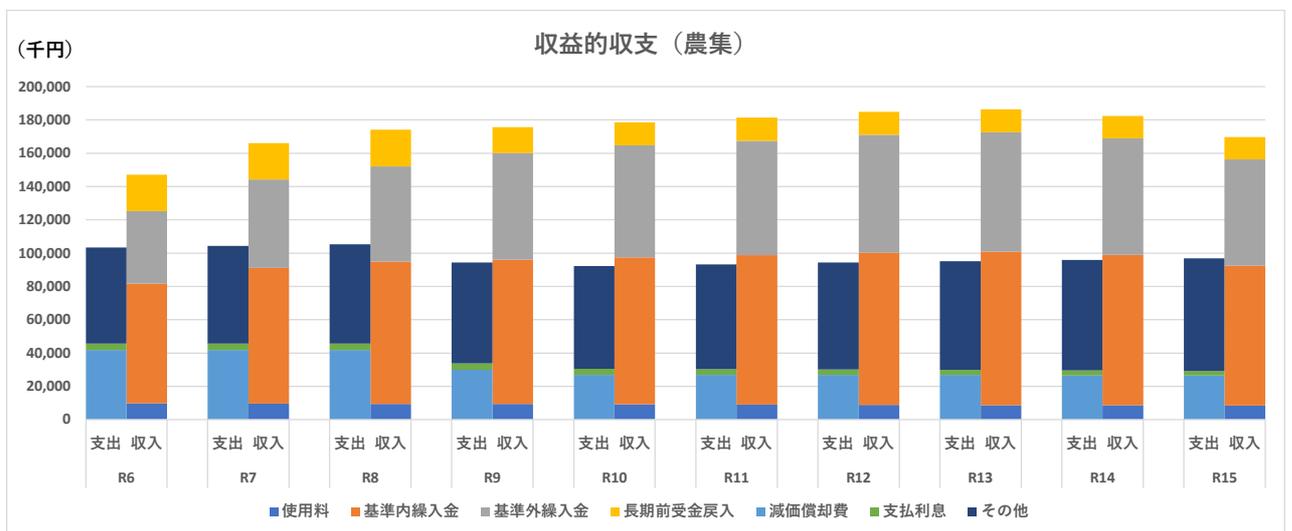


※公共の基準外繰入はし尿・浄化槽汚泥の受入施設整備に関する企業債の元利償還金に充てるために一般会計から繰入れるものであり、収入の不足に伴うものではありません。

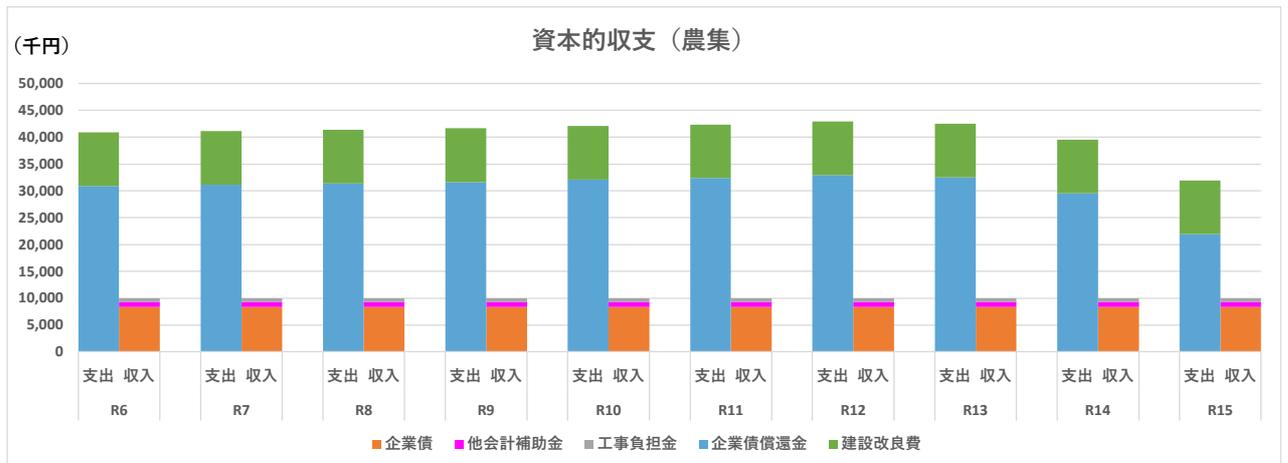
資本的収支（公共）



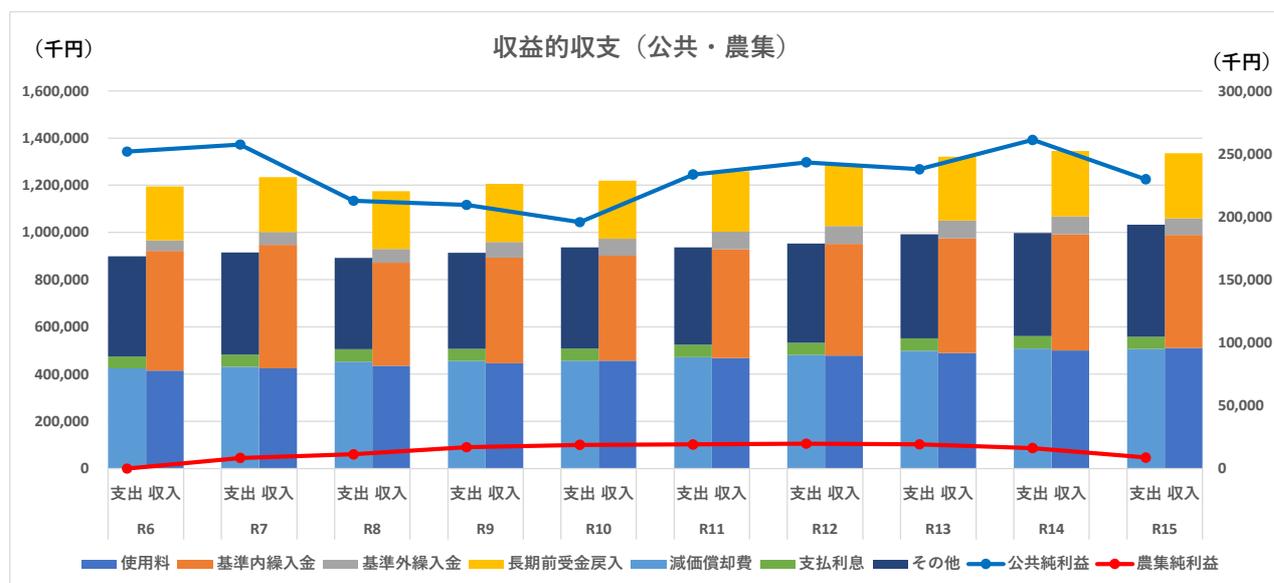
収益的収支（農集）



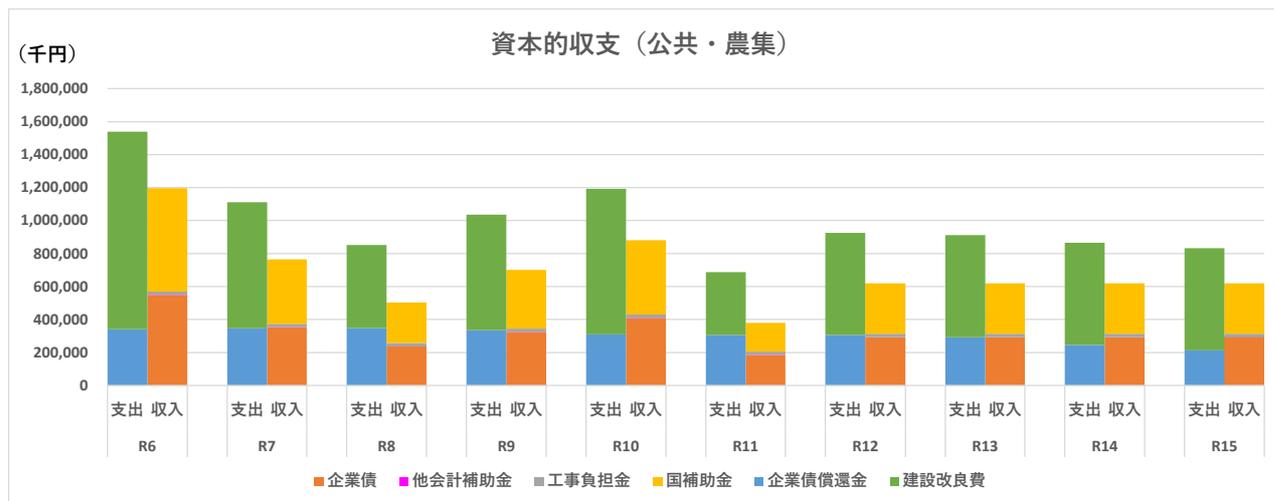
資本的収支（農集）



収益的収支（公共・農集）



資本的収支（公共・農集）



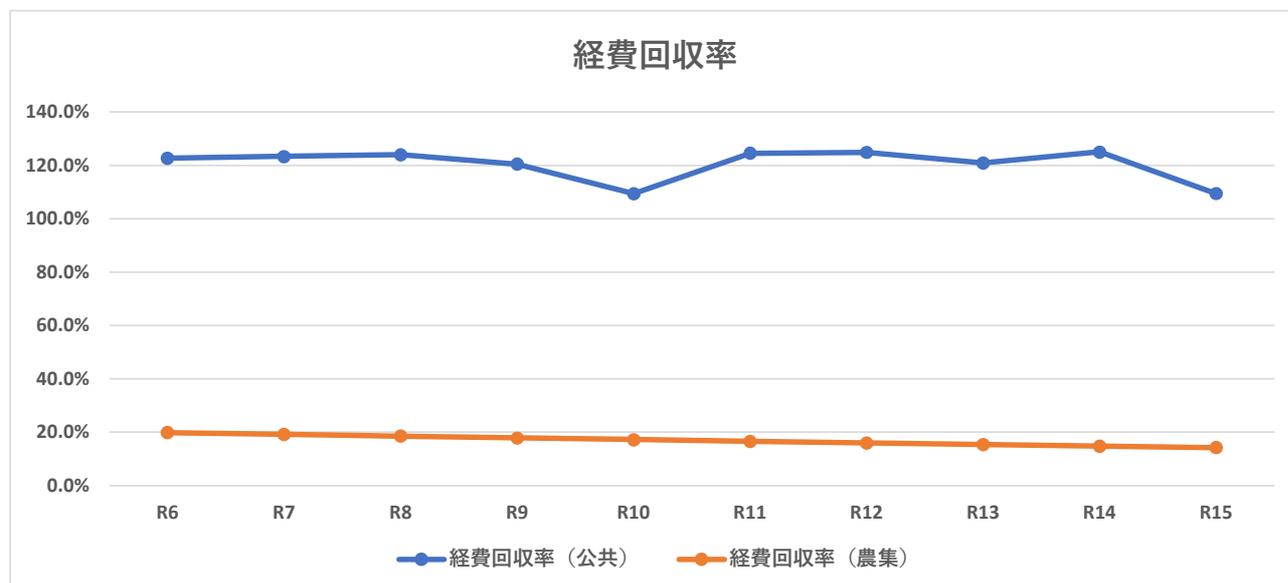
公共：収支、経費回収率ともに安定した状態で推移する見込みです。今後も引き続き施設整備や接続促進に取り組む必要があります。

農集：片島地区農業集落排水施設の改築に係る支出は見込んでいません。支出に対して収入が不足しているため、不足分を補てんするための繰入金増加と経費回収率の悪化が見込まれます。今後公共との接続検討等の抜本的取り組みをより一層推進する必要があります。

全体：全体の収支では、支出に対して必要な収入は確保されます。

使用料改定の必要性に関する検証について

上記収支予測に基づく、経費回収率（使用料収入÷使用料対象経費）の推移は以下の通りです。



公共：経営戦略の改定等の特定の委託業務が発生する年度においては使用料対象経費の増加に伴い経費回収率の減少が見込まれますが、管きよの新設やし尿受け入れ施設の供用開始に伴い、収入増加傾向にあることから、計画期間内を通じて経費回収率100%を上回る見込みです。

農集：経費に対して使用料が不足し、計画期間内を通じて経費回収率が100%を下回る水準で推移します。

上記のとおり計画期間内における各事業の予想経費回収率を算定し、使用料の必要性に関する検証を実施しました。

公共については、計画期間内を通じて健全な経営状況となることが見込まれることから、使用料改定の必要性は無いものと判断します。

農集については、経費回収率が100%を下回る水準にあることは、独立採算の観点からは望ましくない状況であり、改善が求められます。ただし、今後は事業そのもの有り方（公共との接続等）について検討し、その検討結果が得られたのちに、今後適正な使用料について検証することとします。従って、現時点においては据え置きとすることが適当と認識しております。

（3）投資・財政計画

本経営戦略の計画期間である令和6年度から15年度の投資・財政計画を示します。

公共は別紙3（P31・P32）、農集は別紙4（P33・P34）、全体は別紙5（P35・P36）のとおりです。

様式第2号 (法適用企業・収益の収支)

投資・財政計画
(収支計画)

(単位: 千円, %)

| 公共 | | 年 度 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | | |
|---|-----------------------|---------------------|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|
| 区 分 | | | | (決 算) | (決 算) | (税抜き予算) | | | | | | | | | | | | |
| 収 益 的 収 入 | 1. 営 業 収 益 (A) | | | 387,336 | 406,376 | 411,965 | 598,464 | 612,785 | 521,350 | 533,839 | 547,792 | 570,769 | 583,304 | 597,191 | 613,677 | 631,047 | | |
| | | (1) 料 金 収 入 | | | 293,805 | 302,488 | 302,031 | 404,347 | 415,240 | 426,133 | 437,027 | 447,920 | 458,813 | 469,707 | 480,600 | 491,494 | 502,387 | |
| | | (2) 受 託 工 事 収 益 (B) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2. 営 業 外 収 益 | (3) そ の 他 | | 93,531 | 103,888 | 109,934 | 194,117 | 197,545 | 95,217 | 96,812 | 99,872 | 111,956 | 113,597 | 116,591 | 122,183 | 128,660 | | |
| | | (1) 補 助 金 | | | 438,756 | 442,587 | 492,613 | 448,668 | 455,628 | 479,328 | 495,848 | 492,793 | 506,160 | 518,817 | 537,980 | 549,232 | 535,052 | |
| | | | 他 会 計 補 助 金 | | | 250,052 | 255,382 | 296,990 | 242,831 | 244,734 | 256,261 | 265,240 | 260,905 | 264,936 | 272,362 | 281,751 | 285,289 | 271,741 |
| | そ の 他 補 助 金 | | | | 250,052 | 255,382 | 296,990 | 242,831 | 244,734 | 256,261 | 265,240 | 260,905 | 264,936 | 272,362 | 281,751 | 285,289 | 271,741 | |
| | (2) 長 期 前 受 金 戻 入 | | | 187,528 | 186,233 | 195,523 | 205,837 | 210,894 | 223,067 | 230,608 | 231,888 | 241,224 | 246,455 | 256,229 | 263,943 | 263,311 | | |
| | | (3) そ の 他 | | 1,176 | 972 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | 収 入 計 (C) | | 826,092 | 848,963 | 904,578 | 1,047,132 | 1,068,413 | 1,000,678 | 1,029,687 | 1,040,585 | 1,076,929 | 1,102,121 | 1,135,171 | 1,162,909 | 1,166,099 | | |
| | 収 益 的 支 出 | 1. 営 業 費 用 | | | 638,415 | 592,560 | 797,798 | 733,308 | 746,987 | 723,069 | 755,252 | 779,293 | 775,689 | 791,402 | 829,361 | 833,447 | 867,431 | |
| | | | (1) 職 員 給 与 費 | | | 77,703 | 71,468 | 74,838 | 75,586 | 75,987 | 76,389 | 76,794 | 77,201 | 77,610 | 78,021 | 78,436 | 78,851 | 79,269 |
| | | | | 基 本 給 | | | 35,546 | 33,894 | 34,585 | 34,931 | 35,116 | 35,302 | 35,489 | 35,677 | 35,866 | 36,056 | 36,248 | 36,440 |
| | | 退 職 給 付 費 | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | そ の 他 | | | 42,157 | 37,574 | 40,253 | 40,655 | 40,871 | 41,087 | 41,305 | 41,524 | 41,744 | 41,965 | 42,188 | 42,411 | 42,636 | |
| (2) 経 費 | | 動 力 費 | | 195,261 | 158,788 | 337,137 | 274,798 | 281,306 | 235,036 | 252,765 | 272,270 | 252,944 | 259,255 | 278,809 | 272,423 | 307,822 | | |
| | | 修 繕 費 | | 21,439 | 26,995 | 32,092 | 33,504 | 34,978 | 36,517 | 38,124 | 39,801 | 41,553 | 43,381 | 45,290 | 47,282 | 49,363 | | |
| | | 材 料 費 | | 51,894 | 13,523 | 82,479 | 84,128 | 85,811 | 34,573 | 35,264 | 35,970 | 36,689 | 37,423 | 38,171 | 38,935 | 39,713 | | |
| | | そ の 他 | | 0 | 236 | 604 | 616 | 628 | 641 | 653 | 666 | 680 | 693 | 707 | 721 | 736 | | |
| (3) 減 価 償 却 費 | | | | 121,928 | 118,034 | 221,962 | 156,550 | 159,889 | 163,305 | 178,724 | 195,833 | 174,022 | 177,758 | 194,641 | 185,485 | 218,010 | | |
| | | | | 365,451 | 362,304 | 385,823 | 382,924 | 389,694 | 411,644 | 425,693 | 429,822 | 445,135 | 454,126 | 472,116 | 482,173 | 480,340 | | |
| | | 2. 営 業 外 費 用 | | 67,632 | 61,573 | 68,596 | 61,865 | 63,963 | 64,698 | 64,782 | 65,356 | 67,576 | 67,292 | 67,869 | 68,287 | 68,665 | | |
| (1) 支 払 利 息 | | | | 53,756 | 47,795 | 49,596 | 45,544 | 47,316 | 47,718 | 47,462 | 47,690 | 49,556 | 48,912 | 49,121 | 49,164 | 49,160 | | |
| | | (2) そ の 他 | | 13,876 | 13,778 | 19,000 | 16,321 | 16,647 | 16,980 | 17,320 | 17,666 | 18,020 | 18,380 | 18,748 | 19,123 | 19,505 | | |
| | | 支 出 計 (D) | | 706,047 | 654,133 | 866,394 | 795,173 | 810,950 | 787,767 | 820,034 | 844,649 | 843,265 | 858,694 | 897,230 | 901,734 | 936,096 | | |
| 経 常 損 益 (C)-(D) (E) | | 120,045 | 194,830 | 38,184 | 251,959 | 257,463 | 212,911 | 209,653 | 195,935 | 233,663 | 243,427 | 237,942 | 261,175 | 230,003 | | | | |
| 特 別 利 益 (F) | | 17 | 6 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 特 別 損 失 (G) | | 0 | 5 | 190 | 195 | 199 | 203 | 207 | 211 | 215 | 219 | 224 | 228 | 233 | | | | |
| 特 別 損 益 (F)-(G) (H) | | 17 | 1 | △ 180 | △ 195 | △ 199 | △ 203 | △ 207 | △ 211 | △ 215 | △ 219 | △ 224 | △ 228 | △ 233 | | | | |
| 当 年 度 純 利 益 (又 は 純 損 失) (E)+(H) | | 120,062 | 194,831 | 38,004 | 251,764 | 257,264 | 212,708 | 209,446 | 195,724 | 233,448 | 243,208 | 237,718 | 260,947 | 229,770 | | | | |
| 繰 越 利 益 剰 余 金 又 は 累 積 欠 損 金 (I) | | 1,066,164 | 1,260,995 | 1,298,999 | 1,550,763 | 1,808,027 | 2,020,735 | 2,230,181 | 2,425,905 | 2,659,353 | 2,902,561 | 3,140,279 | 3,401,226 | 3,630,996 | | | | |
| 流 動 資 産 (J) | | | 263,783 | 747,272 | 489,681 | 612,272 | 633,467 | 645,514 | 797,196 | 959,823 | 999,889 | 1,236,713 | 1,434,749 | 1,695,694 | 1,960,233 | | | |
| | う ち 未 収 金 | | 220,897 | 643,705 | 423,350 | 394,038 | 307,112 | 255,994 | 301,653 | 342,940 | 241,209 | 295,999 | 300,176 | 304,353 | 308,530 | | | |
| 流 動 負 債 (K) | | | 454,827 | 855,288 | 481,742 | 694,352 | 596,075 | 510,185 | 535,894 | 579,333 | 473,195 | 533,326 | 502,850 | 486,796 | 488,236 | | | |
| | う ち 建 設 改 良 費 分 | | 81,669 | 375,784 | 108,675 | 258,468 | 183,235 | 128,692 | 166,607 | 202,289 | 110,075 | 153,627 | 157,084 | 155,955 | 162,214 | | | |
| | う ち 一 時 借 入 金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | う ち 未 払 金 | | 27,108 | 124,731 | 36,072 | 85,791 | 60,819 | 42,716 | 55,300 | 67,144 | 36,536 | 50,992 | 52,139 | 51,765 | 53,842 | | | |
| 累 積 欠 損 金 比 率 ($\frac{(I)}{(A)-(B)} \times 100$) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 地 方 財 政 法 施 行 令 第 15 条 第 1 項 により 算 定 した 資 金 の 不 足 額 (L) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 営 業 収 益 - 受 託 工 事 収 益 (A)-(B) (M) | | 387,336 | 406,376 | 411,965 | 598,464 | 612,785 | 521,350 | 533,839 | 547,792 | 570,769 | 583,304 | 597,191 | 613,677 | 631,047 | | | | |
| 地 方 財 政 法 施 行 令 第 16 条 により 算 定 した 資 金 の 不 足 額 (N) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 健 全 化 法 施 行 規 則 第 6 条 に 規 定 する 解 消 可 能 資 金 不 足 額 (O) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 健 全 化 法 施 行 令 第 17 条 により 算 定 した 事 業 の 規 模 (P) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 健 全 化 法 第 22 条 により 算 定 した 資 金 不 足 比 率 ((N) / (P) × 100) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |

様式第2号 (法適用企業・資本的収支)

投資・財政計画
(収支計画)

(単位：千円, %)

公共

| 区 分 | | 年 度 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | |
|-----------------------------|----------------------------------|------------------------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|--|
| | | (決算) | (決算) | (税抜き予算) | | | | | | | | | | | | | |
| 資 本 的 収 入 | 資 本 的 収 入 | 1. 企 業 債 | 247,000 | 586,600 | 732,609 | 539,259 | 344,859 | 226,869 | 315,384 | 400,899 | 174,909 | 282,909 | 282,909 | 282,909 | 282,909 | 282,909 | |
| | | うち 資本費平準化債 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2. 他 会 計 出 資 金 | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | | 3. 他 会 計 補 助 金 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 4. 他 会 計 負 担 金 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 5. 他 会 計 借 入 金 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 6. 国 (都 道 府 県) 補 助 金 | 247,559 | 575,629 | 484,950 | 627,960 | 390,360 | 246,150 | 354,335 | 451,120 | 174,910 | 306,910 | 306,910 | 306,910 | 306,910 | 306,910 | |
| | | 7. 固 定 資 産 売 却 代 金 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 8. 工 事 負 担 金 | 34,382 | 21,087 | 19,781 | 19,781 | 19,781 | 19,781 | 19,781 | 19,781 | 19,781 | 19,781 | 19,781 | 19,781 | 19,781 | 19,781 | |
| | | 9. そ の 他 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | |
| | 計 (A) | 528,941 | 1,183,316 | 1,237,341 | 1,187,000 | 755,000 | 492,800 | 689,500 | 871,800 | 369,600 | 609,600 | 609,600 | 609,600 | 609,600 | 609,600 | | |
| | (A)のうち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (B) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 純 計 (A)-(B) (C) | 528,941 | 1,183,316 | 1,237,341 | 1,187,000 | 755,000 | 492,800 | 689,500 | 871,800 | 369,600 | 609,600 | 609,600 | 609,600 | 609,600 | 609,600 | | |
| | 資 本 的 支 出 | 資 本 的 支 出 | 1. 建 設 改 良 費 | 554,967 | 1,212,745 | 1,195,537 | 1,187,000 | 755,000 | 492,800 | 689,500 | 871,800 | 369,600 | 609,600 | 609,600 | 609,600 | 609,600 | |
| うち 職員給与費 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 企 業 債 償 還 金 | | | 292,980 | 304,863 | 349,658 | 310,602 | 314,664 | 316,592 | 303,348 | 278,558 | 274,472 | 272,062 | 260,173 | 216,728 | 190,597 | | |
| 3. 他 会 計 長 期 借 入 返 還 金 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 他 会 計 へ の 支 出 金 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. そ の 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 (D) | 847,947 | 1,517,608 | 1,545,195 | 1,497,602 | 1,069,664 | 809,392 | 992,848 | 1,150,358 | 644,072 | 881,662 | 869,773 | 826,328 | 800,197 | | | | |
| 資本的収入額が資本的支出額に 不足する額 (E) | | (D)-(C) | 319,006 | 334,292 | 307,854 | 310,602 | 314,664 | 316,592 | 303,348 | 278,558 | 274,472 | 272,062 | 260,173 | 216,728 | 190,597 | | |
| 補 填 財 源 | 補 填 財 源 | 1. 消費税資本的収支調整額 | 24,254 | 54,728 | 71,059 | 55,904 | 36,464 | 24,665 | 33,517 | 42,068 | 19,469 | 30,269 | 30,269 | 30,269 | 30,269 | | |
| | | 2. 引 継 金 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 3. 前年度分損益勘定留保資金 | 294,752 | 279,564 | 236,795 | 254,698 | 278,200 | 291,927 | 269,831 | 236,490 | 255,003 | 241,793 | 229,904 | 186,459 | 160,328 | | |
| | | 4. 当年度分損益勘定留保資金 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 5. 当年度利益剰余金処分別 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 6. そ の 他 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 (F) | 319,006 | 334,292 | 307,854 | 310,602 | 314,664 | 316,592 | 303,348 | 278,558 | 274,472 | 272,062 | 260,173 | 216,728 | 190,597 | | | | |
| 補填財源不足額 (E)-(F) | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 他 会 計 借 入 金 残 高 (G) | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 企 業 債 残 高 (H) | | | 4,566,463 | 4,848,200 | 4,710,448 | 4,939,105 | 4,969,300 | 4,879,577 | 4,891,613 | 5,013,954 | 4,914,392 | 4,906,146 | 4,895,777 | 4,920,488 | 4,959,749 | | |

○他会計繰入金 (決算状況調査)

(単位：千円)

| 区 分 | | 年 度 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 |
|-------------|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----|-----|
| | | (決算) | (決算) | (税抜き予算) | | | | | | | | | | | | |
| 収 益 的 収 支 分 | 収 益 的 収 支 分 | 343,478 | 359,217 | 434,164 | 436,949 | 442,280 | 351,478 | 362,051 | 360,778 | 376,892 | 385,960 | 398,342 | 407,472 | 400,402 | | |
| | うち 基準内繰入金 | 343,398 | 359,131 | 406,823 | 436,468 | 441,799 | 350,350 | 360,921 | 355,674 | 371,750 | 380,779 | 393,121 | 402,211 | 395,101 | | |
| | うち 基準外繰入金 | 80 | 86 | 27,341 | 481 | 481 | 1,128 | 1,130 | 5,104 | 5,142 | 5,181 | 5,221 | 5,261 | 5,301 | | |
| 資 本 的 収 支 分 | 資 本 的 収 支 分 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | うち 基準内繰入金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | うち 基準外繰入金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 合 計 | | 343,478 | 359,217 | 434,164 | 436,949 | 442,280 | 351,478 | 362,051 | 360,778 | 376,892 | 385,960 | 398,342 | 407,472 | 400,402 | | |

様式第2号 (法適用企業・収益の収支)

投資・財政計画
(収支計画)

(単位: 千円, %)

| 農集 | | 年 度 | R3 (決算) | R4 (決算) | R5 (税抜き予算) | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | |
|--|-----------------|---------------------|---------------|------------|---------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 区 分 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 収 益 的 収 入 | 1. 営 業 収 益 (A) | 1. 営 業 収 益 (A) | 9,858 | 9,886 | 9,819 | 9,796 | 9,640 | 9,484 | 9,327 | 9,171 | 9,014 | 8,858 | 8,702 | 8,545 | 8,389 | |
| | | (1) 料 金 収 入 | 9,858 | 9,886 | 9,819 | 9,796 | 9,640 | 9,484 | 9,327 | 9,171 | 9,014 | 8,858 | 8,702 | 8,545 | 8,389 | |
| | | (2) 受 託 工 事 収 益 (B) | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2. 営 業 外 収 益 | (3) そ の 他 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2. 営 業 外 収 益 | 71,516 | 70,918 | 76,808 | 93,697 | 103,284 | 107,330 | 102,207 | 102,178 | 103,572 | 105,290 | 106,007 | 103,833 | 97,425 | |
| | | (1) 補 助 金 | 49,308 | 49,000 | 55,000 | 71,885 | 81,445 | 85,464 | 86,776 | 88,334 | 89,702 | 91,393 | 92,140 | 90,374 | 83,986 | |
| | 他 会 計 補 助 金 | 他 会 計 補 助 金 | 49,308 | 49,000 | 55,000 | 71,885 | 81,445 | 85,464 | 86,776 | 88,334 | 89,702 | 91,393 | 92,140 | 90,374 | 83,986 | |
| | | そ の 他 補 助 金 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | (2) 長 期 前 受 金 戻 入 | 22,073 | 21,809 | 21,808 | 21,812 | 21,839 | 21,866 | 15,431 | 13,844 | 13,870 | 13,897 | 13,867 | 13,459 | 13,439 | |
| | (3) そ の 他 | 135 | 109 | | | | | | | | | | | | | |
| | 収 入 計 (C) | 81,374 | 80,804 | 86,627 | 103,493 | 112,924 | 116,814 | 111,534 | 111,349 | 112,586 | 114,148 | 114,709 | 112,378 | 105,814 | | |
| | 支 出 | 1. 営 業 費 用 | 1. 営 業 費 用 | 79,012 | 82,332 | 73,622 | 96,054 | 97,008 | 97,987 | 87,171 | 85,175 | 86,214 | 87,301 | 88,383 | 89,221 | 90,249 |
| | | | (1) 職 員 給 与 費 | 17,337 | 17,949 | 15,806 | 18,994 | 19,095 | 19,196 | 19,298 | 19,400 | 19,503 | 19,606 | 19,710 | 19,815 | 19,920 |
| | | | 基 本 給 | 8,307 | 8,624 | 8,818 | 8,906 | 8,953 | 9,001 | 9,049 | 9,096 | 9,145 | 9,193 | 9,242 | 9,291 | 9,340 |
| | | 退 職 給 付 費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| そ の 他 | | 9,030 | 9,325 | 6,988 | 10,088 | 10,142 | 10,195 | 10,249 | 10,304 | 10,358 | 10,413 | 10,468 | 10,524 | 10,580 | | |
| (2) 経 費 | | 19,939 | 22,778 | 15,450 | 35,315 | 36,168 | 37,046 | 37,949 | 38,879 | 39,836 | 40,820 | 41,835 | 42,879 | 43,953 | | |
| 動 力 費 | | 4,138 | 5,065 | 3,071 | 6,338 | 6,617 | 6,908 | 7,212 | 7,529 | 7,861 | 8,206 | 8,568 | 8,945 | 9,338 | | |
| 修 繕 費 | | 1,559 | 2,919 | 4,708 | 8,882 | 9,060 | 9,241 | 9,426 | 9,615 | 9,807 | 10,003 | 10,203 | 10,407 | 10,615 | | |
| 材 料 費 | | 271 | 350 | 498 | 508 | 518 | 529 | 539 | 550 | 561 | 572 | 584 | 595 | 607 | | |
| そ の 他 | | 13,971 | 14,444 | 7,173 | 19,587 | 19,973 | 20,368 | 20,772 | 21,185 | 21,607 | 22,039 | 22,480 | 22,932 | 23,393 | | |
| (3) 減 価 償 却 費 | | 41,736 | 41,605 | 42,366 | 41,745 | 41,745 | 41,745 | 29,924 | 26,896 | 26,875 | 26,875 | 26,838 | 26,527 | 26,376 | | |
| 2. 営 業 外 費 用 | | 7,880 | 7,511 | 6,621 | 7,243 | 7,302 | 7,338 | 7,239 | 7,151 | 7,044 | 6,935 | 6,822 | 6,712 | 6,621 | | |
| (1) 支 払 利 息 | | 4,539 | 4,332 | 4,621 | 3,979 | 3,973 | 3,942 | 3,775 | 3,618 | 3,440 | 3,259 | 3,073 | 2,888 | 2,720 | | |
| (2) そ の 他 | | 3,341 | 3,179 | 2,000 | 3,264 | 3,329 | 3,396 | 3,464 | 3,533 | 3,604 | 3,676 | 3,749 | 3,824 | 3,901 | | |
| 支 出 計 (D) | | 86,892 | 89,843 | 80,243 | 103,297 | 104,310 | 105,325 | 94,410 | 92,326 | 93,258 | 94,236 | 95,205 | 95,933 | 96,870 | | |
| 経 常 損 益 (C)-(D) (E) | △ 5,518 | △ 9,039 | 6,384 | 196 | 8,614 | 11,489 | 17,124 | 19,023 | 19,328 | 19,912 | 19,504 | 16,445 | 8,944 | | | |
| 特 別 利 益 (F) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 特 別 損 失 (G) | 0 | 0 | 0 | 195 | 199 | 203 | 207 | 211 | 215 | 219 | 224 | 228 | 233 | | | |
| 特 別 損 益 (F)-(G) (H) | 0 | 0 | 0 | △ 195 | △ 199 | △ 203 | △ 207 | △ 211 | △ 215 | △ 219 | △ 224 | △ 228 | △ 233 | | | |
| 当 年 度 純 利 益 (又 は 純 損 失) (E)+(H) | △ 5,518 | △ 9,039 | 6,384 | 1 | 8,415 | 11,286 | 16,917 | 18,812 | 19,113 | 19,693 | 19,280 | 16,217 | 8,711 | | | |
| 繰 越 利 益 剰 余 金 又 は 累 積 欠 損 金 (I) | △ 7,777 | △ 16,816 | △ 10,432 | △ 10,431 | △ 2,016 | 9,270 | 26,187 | 44,999 | 64,112 | 83,805 | 103,085 | 119,302 | 128,013 | | | |
| 流 動 資 産 (J) | 流 動 資 産 (J) | 26,798 | 11,034 | 8,928 | 5,378 | 2,738 | 2,692 | 2,646 | 2,601 | 2,556 | 2,510 | 2,466 | 2,419 | 2,374 | | |
| | う ち 未 収 金 | 2,166 | 2,158 | 6,211 | 2,782 | 2,737 | 2,692 | 2,646 | 2,601 | 2,555 | 2,510 | 2,465 | 2,419 | 2,374 | | |
| 流 動 負 債 (K) | 流 動 負 債 (K) | 35,856 | 39,806 | 32,417 | 40,581 | 41,012 | 41,444 | 42,089 | 42,541 | 43,298 | 43,086 | 40,337 | 32,921 | 28,522 | | |
| | う ち 建 設 改 良 費 分 | 736 | 1,424 | 359 | 1,737 | 1,770 | 1,804 | 1,838 | 1,874 | 1,911 | 1,948 | 1,987 | 2,027 | 2,068 | | |
| | う ち 一 時 借 入 金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | う ち 未 払 金 | 3,226 | 6,242 | 1,575 | 7,618 | 7,762 | 7,909 | 8,061 | 8,217 | 8,378 | 8,544 | 8,714 | 8,890 | 9,070 | | |
| 累 積 欠 損 金 比 率 ($\frac{(I)}{(A)-(B)} \times 100$) | | 0.1 | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | | |
| 地 方 財 政 法 施 行 令 第 15 条 第 1 項 に よ り 算 定 し た 資 金 不 足 額 (L) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 営 業 収 益 - 受 託 工 事 収 益 (A)-(B) (M) | | 9,858 | 9,886 | 9,819 | 9,796 | 9,640 | 9,484 | 9,327 | 9,171 | 9,014 | 8,858 | 8,702 | 8,545 | 8,389 | | |
| 地 方 財 政 法 に よ り 算 定 し た 資 金 不 足 の 比 率 ((L) / (M) × 100) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 健 全 化 法 施 行 令 第 16 条 に よ り 算 定 し た 資 金 不 足 額 (N) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 健 全 化 法 施 行 規 則 第 6 条 に 規 定 す る 消 可 能 資 金 不 足 額 (O) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 健 全 化 法 施 行 令 第 17 条 に よ り 算 定 し た 事 業 の 規 模 (P) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 健 全 化 法 第 22 条 に よ り 算 定 し た 資 金 不 足 比 率 ((N) / (P) × 100) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |

様式第2号 (法適用企業・資本的収支)

投資・財政計画
(収支計画)

(単位：千円, %)

| 農集 | | 年 度 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | |
|-----------------------------|----------------------------------|--------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 区 分 | | (決算) | (決算) | (税抜き予算) | | | | | | | | | | | | | |
| 資 本 的 収 入 | 1. 企 業 債 | | 6,000 | 11,340 | 8,340 | 8,340 | 8,340 | 8,340 | 8,340 | 8,340 | 8,340 | 8,340 | 8,340 | 8,340 | 8,340 | 8,340 | |
| | うち資本費平準化債 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2. 他 会 計 出 資 金 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3. 他 会 計 補 助 金 | | 2,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | |
| | 4. 他 会 計 負 担 金 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5. 他 会 計 借 入 金 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6. 国 (都 道 府 県) 補 助 金 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7. 固 定 資 産 売 却 代 金 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 8. 工 事 負 担 金 | 165 | 185 | 660 | 660 | 660 | 660 | 660 | 660 | 660 | 660 | 660 | 660 | 660 | 660 | 660 | |
| | 9. そ の 他 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 計 (A) | 165 | 8,185 | 13,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | |
| | (A)のうち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (B) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 純 計 (A)-(B) (C) | 165 | 8,185 | 13,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | |
| | 資 本 的 支 出 | 1. 建 設 改 良 費 | 11,025 | 8,540 | 10,520 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 |
| うち職員給与費 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 企 業 債 償 還 金 | | 29,704 | 30,479 | 31,191 | 30,906 | 31,137 | 31,392 | 31,642 | 32,101 | 32,361 | 32,920 | 32,505 | 29,547 | 21,915 | | | |
| 3. 他 会 計 長 期 借 入 返 還 金 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 他 会 計 へ の 支 出 金 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. そ の 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 (D) | 40,729 | 39,019 | 41,711 | 40,906 | 41,137 | 41,392 | 41,642 | 42,101 | 42,361 | 42,920 | 42,505 | 39,547 | 31,915 | | | | |
| 資本的収入額が資本的支出額に 不足する額 (E) | 40,564 | 30,834 | 28,711 | 30,906 | 31,137 | 31,392 | 31,642 | 32,101 | 32,361 | 32,920 | 32,505 | 29,547 | 21,915 | | | | |
| 補 填 財 源 | 1. 消費税資本的収支調整額 | 959 | 577 | 1,052 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | | |
| | 2. 引 継 金 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3. 前年度分損益勘定留保資金 | 39,605 | 30,257 | 27,659 | 29,906 | 30,137 | 30,392 | 30,642 | 31,101 | 31,361 | 31,920 | 31,505 | 28,547 | 20,915 | | | |
| | 4. 当年度分損益勘定留保資金 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5. 当年度利益剰余金処分別 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6. そ の 他 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 (F) | 40,564 | 30,834 | 28,711 | 30,906 | 31,137 | 31,392 | 31,642 | 32,101 | 32,361 | 32,920 | 32,505 | 29,547 | 21,915 | | | | |
| 補填財源不足額 (E)-(F) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 他 会 計 借 入 金 残 高 (G) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 企 業 債 残 高 (H) | 523,709 | 499,230 | 479,179 | 448,281 | 417,152 | 385,769 | 354,135 | 322,043 | 289,690 | 256,778 | 224,282 | 194,743 | 172,837 | | | | |

○他会計繰入金 (決算状況調査)

(単位：千円)

| 年 度 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 |
|-------------|----------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 区 分 | | (決算) | (決算) | (税抜き予算) | | | | | | | | | | |
| 収 益 的 収 支 分 | | 49,308 | 49,000 | 55,000 | 71,885 | 81,445 | 85,464 | 86,776 | 88,334 | 89,702 | 91,393 | 92,140 | 90,374 | 83,986 |
| | うち基準内繰入金 | 28,792 | 29,252 | 34,834 | 28,313 | 28,284 | 28,231 | 22,681 | 21,087 | 20,867 | 20,665 | 20,476 | 20,393 | 20,100 |
| | うち基準外繰入金 | 20,516 | 19,748 | 20,166 | 43,572 | 53,161 | 57,233 | 64,095 | 67,247 | 68,835 | 70,728 | 71,664 | 69,981 | 63,886 |
| 資 本 的 収 支 分 | | 2,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | うち基準内繰入金 | | | | | | | | | | | | | |
| | うち基準外繰入金 | 2,000 | | | | | | | | | | | | |
| 合 計 | 51,308 | 49,000 | 55,000 | 71,885 | 81,445 | 85,464 | 86,776 | 88,334 | 89,702 | 91,393 | 92,140 | 90,374 | 83,986 | |

様式第2号 (法適用企業・収益の収支)

投資・財政計画
(収支計画)

(単位: 千円, %)

| 区 分 | | 年 度 | | R3 (決 算) | R4 (決 算) | R5 (税抜き予算) | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 |
|---|-----------------------|---------------|-----------|---------------|---------------|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|-----|
| 収 益 的 収 入 | 1. 営 業 収 益 (A) | 397,194 | 416,262 | 421,784 | 608,260 | 622,425 | 530,834 | 543,166 | 556,963 | 579,783 | 592,162 | 605,893 | 622,222 | 639,436 | | |
| | (1) 料 金 収 入 | 303,663 | 312,374 | 311,850 | 414,143 | 424,880 | 435,617 | 446,354 | 457,091 | 467,827 | 478,565 | 489,302 | 500,039 | 510,776 | | |
| | (2) 受 託 工 事 収 益 (B) | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (3) そ の 他 | 93,531 | 103,888 | 109,934 | 194,117 | 197,545 | 95,217 | 96,812 | 99,872 | 111,956 | 113,597 | 116,591 | 122,183 | 128,660 | | |
| | 2. 営 業 外 収 益 | 510,272 | 513,505 | 569,421 | 542,365 | 558,912 | 586,658 | 598,055 | 594,971 | 609,732 | 624,107 | 643,987 | 653,065 | 632,477 | | |
| | (1) 補 助 金 | 299,360 | 304,382 | 351,990 | 314,716 | 326,179 | 341,725 | 352,016 | 349,239 | 354,638 | 363,755 | 373,891 | 375,663 | 355,727 | | |
| | 他 会 計 補 助 金 | 299,360 | 304,382 | 351,990 | 314,716 | 326,179 | 341,725 | 352,016 | 349,239 | 354,638 | 363,755 | 373,891 | 375,663 | 355,727 | | |
| | そ の 他 補 助 金 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (2) 長 期 前 受 金 戻 入 | 209,601 | 208,042 | 217,331 | 227,649 | 232,733 | 244,933 | 246,039 | 245,732 | 255,094 | 260,352 | 270,096 | 277,402 | 276,750 | | |
| | (3) そ の 他 | 1,311 | 1,081 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 収 入 計 (C) | 907,466 | 929,767 | 991,205 | 1,150,625 | 1,181,337 | 1,117,492 | 1,141,221 | 1,151,934 | 1,189,515 | 1,216,269 | 1,249,880 | 1,275,287 | 1,271,913 | | |
| | 収 益 的 支 出 | 1. 営 業 費 用 | 717,427 | 674,892 | 871,420 | 829,362 | 843,995 | 821,056 | 842,423 | 864,468 | 861,903 | 878,703 | 917,744 | 922,668 | 957,680 | |
| | | (1) 職 員 給 与 費 | 95,040 | 89,417 | 90,644 | 94,580 | 95,082 | 95,585 | 96,092 | 96,601 | 97,113 | 97,627 | 98,146 | 98,666 | 99,189 | |
| | | 基 本 給 | 43,853 | 42,518 | 43,403 | 43,837 | 44,069 | 44,303 | 44,538 | 44,773 | 45,011 | 45,249 | 45,490 | 45,731 | 45,973 | |
| | | 退 職 給 付 費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| そ の 他 | | 51,187 | 46,899 | 47,241 | 50,743 | 51,013 | 51,282 | 51,554 | 51,828 | 52,102 | 52,378 | 52,656 | 52,935 | 53,216 | | |
| (2) 経 費 | | 215,200 | 181,566 | 352,587 | 310,113 | 317,474 | 272,082 | 290,714 | 311,149 | 292,780 | 300,075 | 320,644 | 315,302 | 351,775 | | |
| 動 力 費 | | 25,577 | 32,060 | 35,163 | 39,842 | 41,595 | 43,425 | 45,336 | 47,330 | 49,414 | 51,587 | 53,858 | 56,227 | 58,701 | | |
| 修 繕 費 | | 53,453 | 16,442 | 87,187 | 93,010 | 94,871 | 43,814 | 44,690 | 45,585 | 46,496 | 47,426 | 48,374 | 49,342 | 50,328 | | |
| 材 料 費 | | 271 | 586 | 1,102 | 1,124 | 1,146 | 1,170 | 1,192 | 1,216 | 1,241 | 1,265 | 1,291 | 1,316 | 1,343 | | |
| そ の 他 | | 135,899 | 132,478 | 229,135 | 176,137 | 179,862 | 183,673 | 199,496 | 217,018 | 195,629 | 199,797 | 217,121 | 208,417 | 241,403 | | |
| (3) 減 価 償 却 費 | | 407,187 | 403,909 | 428,189 | 424,669 | 431,439 | 453,389 | 455,617 | 456,718 | 472,010 | 481,001 | 498,954 | 508,700 | 506,716 | | |
| 2. 営 業 外 費 用 | | 75,512 | 69,084 | 75,217 | 69,108 | 71,265 | 72,036 | 72,021 | 72,507 | 74,620 | 74,227 | 74,691 | 74,999 | 75,286 | | |
| (1) 支 払 利 息 | | 58,295 | 52,127 | 54,217 | 49,523 | 51,289 | 51,660 | 51,237 | 51,308 | 52,996 | 52,171 | 52,194 | 52,052 | 51,880 | | |
| (2) そ の 他 | | 17,217 | 16,957 | 21,000 | 19,585 | 19,976 | 20,376 | 20,784 | 21,199 | 21,624 | 22,056 | 22,497 | 22,947 | 23,406 | | |
| 支 出 計 (D) | | 792,939 | 743,976 | 946,637 | 898,470 | 915,260 | 893,092 | 914,444 | 936,975 | 936,523 | 952,930 | 992,435 | 997,667 | 1,032,966 | | |
| 経 常 損 益 (C)-(D) (E) | 114,527 | 185,791 | 44,568 | 252,155 | 266,077 | 224,400 | 226,777 | 214,958 | 252,991 | 263,339 | 257,446 | 277,620 | 238,947 | | | |
| 特 別 利 益 (F) | 17 | 6 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 特 別 損 失 (G) | 0 | 5 | 190 | 390 | 398 | 406 | 414 | 422 | 430 | 438 | 448 | 456 | 466 | | | |
| 特 別 損 益 (F)-(G) (H) | 17 | 1 | △ 180 | △ 390 | △ 398 | △ 406 | △ 414 | △ 422 | △ 430 | △ 438 | △ 448 | △ 456 | △ 466 | | | |
| 当 年 度 純 利 益 (又 は 純 損 失) (E)+(H) | 114,544 | 185,792 | 44,388 | 251,765 | 265,679 | 223,994 | 226,363 | 214,536 | 252,561 | 262,901 | 256,998 | 277,164 | 238,481 | | | |
| 繰 越 利 益 剰 余 金 又 は 累 積 欠 損 金 (I) | 1,058,387 | 1,244,179 | 1,288,567 | 1,540,332 | 1,806,011 | 2,030,005 | 2,256,368 | 2,470,904 | 2,723,465 | 2,986,366 | 3,243,364 | 3,520,528 | 3,759,009 | | | |
| 流 動 資 産 (J) | 290,580 | 758,306 | 498,609 | 617,650 | 636,205 | 648,206 | 799,842 | 962,424 | 1,002,445 | 1,239,223 | 1,437,215 | 1,698,114 | 1,962,607 | | | |
| | う ち 未 収 金 | 223,063 | 645,863 | 429,561 | 396,820 | 309,849 | 258,686 | 304,299 | 345,541 | 243,764 | 298,509 | 302,641 | 306,772 | 310,904 | | |
| 流 動 負 債 (K) | 490,683 | 895,094 | 514,159 | 734,933 | 637,087 | 551,629 | 577,983 | 621,874 | 516,493 | 576,412 | 543,187 | 519,717 | 516,758 | | | |
| | う ち 建 設 改 良 費 分 | 82,405 | 377,208 | 109,034 | 260,205 | 185,005 | 130,496 | 168,445 | 204,163 | 111,986 | 155,575 | 159,071 | 157,982 | 164,282 | | |
| | う ち 一 時 借 入 金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | う ち 未 払 金 | 30,334 | 130,973 | 37,647 | 93,409 | 68,581 | 50,625 | 63,361 | 75,361 | 44,914 | 59,536 | 60,853 | 60,655 | 62,912 | | |
| 累 積 欠 損 金 比 率 ($\frac{(I)}{(A)-(B)} \times 100$) | 0.1 | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | | | |
| 地 方 財 政 法 施 行 令 第 15 条 第 1 項 により 算 定 した 資 金 不 足 額 (L) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 営 業 収 益 - 受 託 工 事 収 益 (A)-(B) (M) | 397,194 | 416,262 | 421,784 | 608,260 | 622,425 | 530,834 | 543,166 | 556,963 | 579,783 | 592,162 | 605,893 | 622,222 | 639,436 | | | |
| 地 方 財 政 法 施 行 令 第 16 条 により 算 定 した 資 金 不 足 額 (N) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 健 全 化 法 施 行 令 第 6 条 に 規 定 する 解 消 可 能 資 金 不 足 額 (O) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 健 全 化 法 施 行 令 第 17 条 により 算 定 した 事 業 の 規 模 (P) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 健 全 化 法 第 22 条 により 算 定 した 資 金 不 足 比 率 ((N) / (P) × 100) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |

様式第2号 (法適用企業・資本的収支)

投資・財政計画
(収支計画)

公共・農集

(単位：千円，%)

| 区 分 | | 年 度 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | |
|-----------------------------|----------------------------------|------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|---------|--|
| | | (決算) | (決算) | (税抜き予算) | | | | | | | | | | | | | |
| 資 本 的 収 入 | 資 本 的 収 入 | 1. 企 業 債 | 247,000 | 592,600 | 743,949 | 547,599 | 353,199 | 235,209 | 323,724 | 409,239 | 183,249 | 291,249 | 291,249 | 291,249 | 291,249 | 291,249 | |
| | | うち 資本費平準化債 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2. 他 会 計 出 資 金 | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | | 3. 他 会 計 補 助 金 | | 2,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | |
| | | 4. 他 会 計 負 担 金 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 5. 他 会 計 借 入 金 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 6. 国 (都 道 府 県) 補 助 金 | 247,559 | 575,629 | 484,950 | 627,960 | 390,360 | 246,150 | 354,335 | 451,120 | 174,910 | 306,910 | 306,910 | 306,910 | 306,910 | 306,910 | |
| | | 7. 固 定 資 産 売 却 代 金 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 8. 工 事 負 担 金 | 34,547 | 21,272 | 20,441 | 20,441 | 20,441 | 20,441 | 20,441 | 20,441 | 20,441 | 20,441 | 20,441 | 20,441 | 20,441 | 20,441 | |
| | 9. そ の 他 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 計 (A) | 529,106 | 1,191,501 | 1,250,341 | 1,197,000 | 765,000 | 502,800 | 699,500 | 881,800 | 379,600 | 619,600 | 619,600 | 619,600 | 619,600 | 619,600 | | |
| | (A)のうち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (B) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 純 計 (A)-(B) (C) | 529,106 | 1,191,501 | 1,250,341 | 1,197,000 | 765,000 | 502,800 | 699,500 | 881,800 | 379,600 | 619,600 | 619,600 | 619,600 | 619,600 | 619,600 | | |
| | 資 本 的 支 出 | 1. 建 設 改 良 費 | 565,992 | 1,221,285 | 1,206,057 | 1,197,000 | 765,000 | 502,800 | 699,500 | 881,800 | 379,600 | 619,600 | 619,600 | 619,600 | 619,600 | 619,600 | |
| うち 職員給与費 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 2. 企 業 債 償 還 金 | | 322,684 | 335,342 | 380,849 | 341,508 | 345,801 | 347,984 | 334,990 | 310,659 | 306,833 | 304,982 | 292,678 | 246,275 | 212,512 | | | |
| 3. 他 会 計 長 期 借 入 返 還 金 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 他 会 計 へ の 支 出 金 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. そ の 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 (D) | 888,676 | 1,556,627 | 1,586,906 | 1,538,508 | 1,110,801 | 850,784 | 1,034,490 | 1,192,459 | 686,433 | 924,582 | 912,278 | 865,875 | 832,112 | | | | |
| 資本的収入額が資本的支出額に 不足する額 (E) | 359,570 | 365,126 | 336,565 | 341,508 | 345,801 | 347,984 | 334,990 | 310,659 | 306,833 | 304,982 | 292,678 | 246,275 | 212,512 | | | | |
| 補 填 財 源 | 1. 消費税資本的収支調整額 | 25,213 | 55,305 | 72,111 | 56,904 | 37,464 | 25,665 | 34,517 | 43,068 | 20,469 | 31,269 | 31,269 | 31,269 | 31,269 | | | |
| | 2. 引 継 金 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3. 前年度分損益勘定留保資金 | 334,357 | 309,821 | 264,454 | 284,604 | 308,337 | 322,319 | 300,473 | 267,591 | 286,364 | 273,713 | 261,409 | 215,006 | 181,243 | | | |
| | 4. 当年度分損益勘定留保資金 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5. 当年度利益剰余金処分数額 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6. そ の 他 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 (F) | 359,570 | 365,126 | 336,565 | 341,508 | 345,801 | 347,984 | 334,990 | 310,659 | 306,833 | 304,982 | 292,678 | 246,275 | 212,512 | | | | |
| 補填財源不足額 (E)-(F) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 他 会 計 借 入 金 残 高 (G) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 企 業 債 残 高 (H) | 5,090,172 | 5,347,430 | 5,189,627 | 5,387,386 | 5,386,453 | 5,265,346 | 5,245,748 | 5,335,997 | 5,204,082 | 5,162,924 | 5,120,058 | 5,115,231 | 5,132,586 | | | | |

○他会計繰入金 (決算状況調査)

(単位：千円)

| 区 分 | | 年 度 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 |
|-------------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----|-----|
| | | (決算) | (決算) | (税抜き予算) | | | | | | | | | | | | |
| 収 益 的 収 支 分 | | 392,786 | 408,217 | 489,164 | 508,834 | 523,725 | 436,942 | 448,827 | 449,112 | 466,594 | 477,353 | 490,482 | 497,846 | 484,388 | | |
| | うち 基準内繰入金 | 372,190 | 388,383 | 441,657 | 464,781 | 470,083 | 378,581 | 383,602 | 376,761 | 392,617 | 401,444 | 413,597 | 422,604 | 415,201 | | |
| | うち 基準外繰入金 | 20,596 | 19,834 | 47,507 | 44,053 | 53,642 | 58,361 | 65,225 | 72,351 | 73,977 | 75,909 | 76,885 | 75,242 | 69,187 | | |
| 資 本 的 収 支 分 | | 2,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | うち 基準内繰入金 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | うち 基準外繰入金 | 2,000 | | | | | | | | | | | | | | |
| 合 計 | 394,786 | 408,217 | 489,164 | 508,834 | 523,725 | 436,942 | 448,827 | 449,112 | 466,594 | 477,353 | 490,482 | 497,846 | 484,388 | | | |

8. 効率化・経営健全化の取組

(1) 下水道使用料について

下水道使用料の水準・体系の適正なあり方と、経費回収率向上のための使用料改定の必要性の有無についての検証を、3年～5年に一度の頻度で実施します。

(2) 老朽化対策について

修繕を効率的に行っていくための長寿命化に取り組むとともに、ストックマネジメント計画に基づく計画的な改築・更新を実施します。

(3) 組織、人材、定員に関する事項

①組織の効率化と職員定員の適正化、経費節減に努めます。

②職員には、技術、経営部門の研修への積極的な参加を促し、専門職員の育成、資質の向上を図ります。

(4) 下水道接続の促進

(1)と連動しますが、生活排水による水質汚濁の防止ならびに安定した収入の確保のため、未接続世帯の実態を把握するとともに接続の促進啓発に努め、接続率向上を図ります。

接続推進の取組みは毎年継続するものですが、効果を高めるため、最適な時期や対象地域を検討した上で、重点的な推進活動を実施します。

| 項目 | 重点活動期間※ | 実施状況 | 概要 |
|------|-------------------|---------------------|--------------------------------|
| 勸奨活動 | 令和10年度～ 令和11年度 | 令和元～2年度に 接続勸奨を実施 | 接続状況の調査、訪問、広報資料の配布等を重点的に実施します。 |

※実施時期や対象地域は新規整備の状況も踏まえて調整します。

(5) 民間の資金・ノウハウの活用に関する事項

①処理場やポンプ場、マンホールポンプ場等の維持管理業務については、すでに民間委託を実施していますが、施設の修繕工事や小規模修繕には職員が対応しています。今後は、修繕対応も含めた包括的な民間委託を実施することによるコスト削減の可能性を検討します。

また、包括的業務委託に際しては、民間事業者との対話（サウンディング）を実施し、民間事業者からコスト削減の提案があれば最大限に取り入れることとします。委託後においても、民間事業者の創意工夫を尊重しながら、その効果について町が継続的にモニタリングを行い、官民で連携してコスト削減に努めます。

包括的民間委託以外のPPP/PFI手法に関しても、事業環境を踏まえ、必要性・有効性が認められる

ものについては積極的に導入検討を行います。なお、PPP/PFIの中でも、国が導入を推進しているウォーターPPPについては、管きよも含めた施設の改築を実施する際に、スケジュールや対象施設を踏まえて検討します。

- ② 薬品の共同調達を進め、スケールメリットによる調達コスト削減に努めます。
- ③ 管路台帳システム、マンホールポンプ場監視システム等のクラウド化を進め、業務の生産性を高め、維持管理コストの抑制に努めます。

(6) 施設管理に関する事項

- ① 昨今では、国においても下水道事業に係るデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進に係る制度の充実が図られているため、業務効率化に資するものは積極的な導入を検討します。

- ② 下水道等の事業を持続的に実施するため、維持管理と改築修繕に対して生涯費用の軽減等を考慮しながら一体的にとらえたストックマネジメントの策定を行い、住民等に説明しながら取り組んでいきます。

処理場・ポンプ場の機器の更新に際しては、本町SDGsの理念実現の観点からも、既存の設備の積極的活用や、省エネ・脱炭素型の新技術活用を視野に入れ、ランニングコスト・ライフサイクルコストが削減できるよう検討します。

- ③ 農集については、現在片島地区農業集落排水処理施設で、単独処理を行っています。今後の改築と維持管理に要するコスト削減のため、抜本的な取り組みを検討します。取り組み方針の選択肢としては、「福岡県汚水処理事業広域化・共同化計画」(令和5年3月)ならびに「苅田町下水道事業経営戦略」(令和3年3月 ※前回経営戦略)に掲げている公共下水道への接続、個別処理(合併処理浄化槽)への移行、現状維持(農集単独処理)などが挙げられます。今後はこれらの中から本町に最適な方針と進め方について検討し、実施していきます。検討にあたって考慮すべき事項は別紙6(P40)に整理したとおりです。

(7) 資金不足比率の見直しに関する事項

令和4年度決算時点においては、地方財政法上の資金不足は発生しておらず、今後も財政状況の健全化に努めていきます。

(8) 資金管理・調達に関する事項

投資・財政計画においては、使用料収入、一般会計からの繰入金、国からの交付金、企業債の借入により資金を確保することとしています。

国土交通省「社会資本整備総合交付金交付要綱」及び「社会資本整備総合交付金等の交付にあたっての要件等の運用について」において「少なくとも5年に1回の頻度で、下水道使用料の改定の必要性に関する検証を行うとともに、検証結果を踏まえ、経費回収率の向上に向けたロードマップを経営戦略に記載し、国土交通省に提出等すること」となっていることを踏まえ、3～5年に一度下水道使用料のあり方について検証を行います。

(9) SDGsに関する事項

SDGsは、平成27(2015)年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ(行動計画)」に記載された、国際的な取組目標である「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」の略です。

持続可能な世界を創出するために、2030年までにすべての国や地域で取り組むべき17の目標とそれを達成するための169の具体的な取組内容、取り組みの成果を図るための232の指標で構成されています。

政府は、SDGsの達成に向け、全国の地方自治体及びその地域で活躍するステークホルダーによる積極的な取り組みの推進が不可欠であるとし、各地方自治体に対し、各種計画等にSDGsの要素を最大限反映することを奨励しており、SDGs未来都市として持続可能なまちづくりを進める苅田町においても、SDGsに掲げられている17の目標について、総合計画の中で施策と関連付け、取り組みを進めています。

下水道事業では、「苅田町第5次総合計画前期基本計画」において、生活排水処理施設の整備を取り組みの方向性として位置づけており、「苅田町下水道事業経営戦略」等を通じてSDGsの達成に貢献します。



農業集落排水事業の経営改善に係る抜本的な取り組みについて

(1) 公共との接続

- 利点：農集利用者の経済負担の増加を回避しつつ、維持管理コストを削減することにより、経営の健全化と一般会計の財政負担軽減が見込まれます。
- 欠点：処理施設の強化や管きよの延伸等の必要な整備に多くの時間とコストがかかります。
- 要検討事項
 - ・公共の管きよ整備状況や浄化センターの処理能力等の、技術的な実現可能性を検討する必要があります。その際には、関連計画の整合も図る必要があります。
 - ・整備に要するコストと、削減が見込まれる維持管理コストを算定し、経済効果・収入と比較しての妥当性を検証する必要があります。
 - ・農集を存続させたまま公共と接続するか、農集を廃止するかを検討する必要があります。
 - ※農集を存続させたまま公共と接続する場合には、農集から公共への負担金等の経理処理について検討する必要があります。
 - ※農集を廃止して公共の処理区域に編入する場合、関係する条例を改正する必要があります。また、旧農集区域での受益者負担金の算出方法について検討する必要があります。
 - ・補助を受けて建設した農集の処理施設での財産処分を行うため、「補助事業等により取得し、又は効用の増加した財産の処分等の承認基準について」（平成20年5月23日農林水産省大臣官房経理課長通知）に従い、農林水産大臣の承認を受ける必要があります。

(2) 個別処理（合併処理浄化槽）への移行

- 利点：(1)よりも実施に要する期間とコストを抑えた上で、町の財政負担を軽減できます。
- 欠点：原則として所有者が設置し、維持管理を行うため、利用者の負担や責任が発生します。
- 要検討事項
 - ・地域住民への説明や協議を十分に実施する必要があります。
 - ・利用者の経済負担を軽減するための補助や融資制度について検討する必要があります。
 - ・関連計画との整合を図る必要があります。
 - ・(1)公共との接続と同様に、財産処分に関する所定の手続きを適切に実施する必要があります。

(3) 現状維持（農集単独処理）

- 利点：既存施設の撤去や管きよの布設によるコストは発生しません。また、集合処理を継続するため、個別処理と比較して使用者の負担は低い状態のままとなります。
- 欠点：使用料の不足により、一般会計からの繰入金に依存するため、町の財政負担が増大します。
片島処理場の改築更新費用に巨額のコストが発生するため、事業の継続可能性が危ぶまれます。
- 要検討事項
 - ・事業の継続可能性と上記の2方策の実施可能性を検討する必要があります。
 - ・上記(1)、(2)に掲げる抜本的な経営改善を行わないこととする場合、農集における使用料の値上げ等による経営改善の検討が必要となります。

主な用語集

| 用 語 | 説 明 |
|------------------|--|
| あ行 | |
| ウォーターPPP (W-ppp) | 水道、工業用水道、下水道についてのPPP/PFI手法のうち、「公共施設等運営事業（コンセッション事業）」と「管理・更新一体マネジメント方式」の総称。 |
| か行 | |
| 管きよ（管渠） | 給水・排水を目的として作られる水路全体を指し、地上部に造られる開渠（かいきよ）と地中に造られる暗渠（あんきよ）に分かれるが、原則として下水道では暗きよとなっている。 |
| 管路施設 | 管きよ、マンホール、雨水吐き、吐口、ます、取付け、雨水貯留施設等の総称。 |
| 合併処理浄化槽 | 生活排水（便所から排出されるし尿と、台所や洗濯、風呂等から出される生活雑排水）の全てを処理することができる浄化槽 |
| 企業債 | 地方公営企業が経費や施設の建設・改良等に要する資金を調達するために起こす地方債のこと。（借入金） |
| 基準外繰入 | 一般会計から下水道事業会計への繰入のうち、総務省が示した繰出基準に該当しないもの。使用料収入の不足によるものが一般的だが、本町の公共では、し尿・浄化槽汚泥の受入施設整備に係る企業債の元金償還に充てるために繰入れるものである。 |
| 基準内繰入 | 一般会計から下水道事業会計への繰入のうち、雨水処理に要する経費等、下水道事業が社会全般にもたらす便益に係る経費に充てるものとして、総務省の示す繰出基準に定められているもの。 |
| 基本使用料 | 汚水排出量（使用量）に関係なく必要となる経費に対するもので、本町では10 ^m の基本使用量を設定し、その量までは定額の使用料となる。 |
| 供用開始年月日 | 下水道法に定める用語で、下水道が使用可能になった、または汚水の処理が開始された年月日のこと。 |
| 躯体 | 建築物を支える主要な構造部分（壁、柱、床、梁、屋根、階段）を意味する。 |

| | |
|-------------|---|
| クラウド化 | 自前のサーバーなどを設置して運用していた既存の情報システムを外 部事業者のクラウドサービスを利用する方式に移行するもの。自前の サーバーを管理する必要がなくなり、必要な分だけ必要な時に利用す る方式となり、コストや負担を必要最低限に抑えられる。 |
| 減価償却 | 固定資産の取得にかかった支出を、使用可能期間の全期間にわたる経 費として、1年ずつ分割して費用計上する会計処理のこと。 建物、構築物、機械及び装置等の、時間の経過とともに価値が減少す る資産（償却資産）に対して行い、下水道事業においては、使用可能 期間（耐用年数）の各年度に均等に配分する。（定額法） |
| 個別処理方式 | 各家庭や施設で発生した汚水を敷地内で処理し、放流する汚水処理方 式。合併処理浄化槽等が該当する。 |
| さ行 | |
| 集合処理方式 | 複数戸からの汚水を管きよで集約的に処理する汚水処理方式。下水道 や集落排水施設等が該当する。 |
| 社会資本整備総合交付金 | 地方公共団体等による社会資本の整備（下水道、道路、河川、住宅 等）を支援することを目的とする交付金であり、平成22年度に、国土 交通省所管の個別補助金を一括する形で創設された。 地方公共団体が作成した社会資本整備総合計画に基づき、目標実現の ための基幹的な社会資本整備事業のほか、関連する事業を総合的に支 援する者。 |
| 処理区域内人口 | 処理区域面積1ヘクタールあたりの人口を示したもの。 |
| 水洗化人口 | 処理区域内で実際に下水道に接続し汚水処理をしている人口のこと。 |
| ストックマネジメント | 構造物や施設の機能診断に基づく機能保全対策の実施を通じて、既存 施設の有効活用や長寿命化を図り生涯費用を低減するための技術体系 及び管理手法の総称。 特に下水道では管きよや処理場等の膨大な資産を抱えていることか ら、施設の状況を客観的に把握、評価し、長期的な状態を予測しなが ら、下水道施設を計画的かつ効率的に管理する。 |
| た行 | |
| 脱炭素（型） | 2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロ（カーボンニュートラル、脱 炭素社会）を実現するために求められる取り組み。 具体的には省エネ技術の導入による温室効果ガス排出量の削減や、バ イオガス発電等の創エネ技術の活用などが挙げられる。 |

| | |
|----------------------------------|---|
| 長寿命化 | 施設の改築のうち、既存の施設の一部を活かしながら部分的に新しくすること。 |
| デジタルトランスフォーメーション (DX) | データとデジタル技術の活用により、業務そのものや、組織、プロセスを変革し、それによって下水道の持続と進化を実現する取組。 |
| は行 | |
| PDCA サイクル | 業務プロセスの管理手法の一つ。Plan (計画) →Do (実行) →Check (評価) →Act (改善) という4段階の活動を繰り返し行なうことで、継続的にプロセスを改善していく手法。 |
| PFI (Private Finance Initiative) | PPP手法の一つであり、公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うもの。 |
| PPP (Public Private Partnership) | 官民 (公民) が連携して、公共サービスの提供を行うこと。民間事業者の創意工夫によるサービス向上やコストの削減を目指す。 |
| 包括的業務委託 | 施設の運転管理や修繕などを一括して民間の事業者へ委託し、維持管理業務の効率化・コスト削減を図るもの |
| ま行 | |
| マンホールポンプ場 | 地形的に自然勾配で下水を流下させることが困難な場合、また自然流下方式では建設費が著しく増加する場合に、マンホールの中にポンプ場を設け、下水を汲み上げる施設。 |
| や行 | |
| 有収水量 | 下水処理場で処理した全汚水量のうち、下水道使用料徴収の対象となる水量のこと。 |
| ら行 | |
| ライフサイクルコスト | 施設・設備における新規整備、維持、修繕、改築等を含めた生涯費用の総計。 |
| ランニングコスト | システムや施設・設備を維持するために必要なコストのこと。消耗品費や通信費、電気代、また人件費など業務を継続するための費用も該当する。 |
| 累進型従量使用料 | 使用量の増加に応じて段階的に料金が上がる使用料。本町では基本使用量である10m ³ を超えた部分についての従量使用料と基本使用料を合わせた二部使用料制になっている。 |